

公財) PMF 組織委員会 御中

第 29 回パシフィック・ミュージック・フェスティバル2018

来場者調査 報告書

2019 年 2 月

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
研究員 宮部潤一郎

目 次

1. はじめに
2. 調査実施及び回収状況
 - 2-1. 調査内容と調査票
 - 2-2. 調査実施コンサートと回収状況
3. 集計結果分析その1 札幌調査結果の時系列比較
 - 3-1. 初来場時期
 - 3-2. 提供情報の認知度、注目度
 - 3-3. 演奏会来場のきっかけ
 - 3-4. 来場形態
 - 3-5. 音楽との関わり
 - 3-6. 舞台芸術の鑑賞状況
 - 3-7. PMF に関する意識
 - 3-8. フェースシート
4. 集計結果分析その2 リンクアップ・コンサートの来場者調査
 - 4-1. 来場理由
 - 4-2. 来場形態
 - 4-3. コンサートの感想
 - 4-4. PMF への来場経験
 - 4-5. 認知した情報源
 - 4-6. 音楽との関わり
 - 4-7. クラシック音楽の印象
 - 4-8. フェースシート
5. 集計結果分析その3 広島演奏会の調査結果に関する分析
 - 5-1. PMF の認知度
 - 5-2. 情報提供
 - 5-3. 音楽との関わり
 - 5-4. 演奏会来場のきっかけ
 - 5-5. 来場形態
 - 5-6. クラシック音楽演奏会への来場頻度

5-7. 国内の音楽祭の認知度、参加率

5-8. 札幌への来訪意向

5-9. フェースシート

6. 集計結果分析その4 道内演奏会での調査結果に関する分析

6-1. 初来場時期

6-2. PMF に関する意識

6-3. 音楽との関わり

6-4. 演奏会への感想

6-5. フェースシート

7. まとめ

付属資料

1. はじめに

PMF 演奏会来場者を対象としたアンケート調査は、2014 年に北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院の学生プロジェクトチームによって実施されて以来、本年で 5 回目の実施である。時系列の比較が可能となる調査内容として実施することを意識しつつ、札幌以外の道内で開催された公演や広島公演を対象とした調査も実施した。また本年は、札幌市内の小学生を対象とした取り組みであるリンクアップ・コンサートへの来場者を対象とした調査を実施した。

実施に当たっては PMF 組織委員会の協力と支援を得たが、本報告書は宮部の責任でまとめたものである。したがって、以下の分析結果の解釈や結果に基づく考察は宮部のもので、PMF 組織委員会のものではない。

このアンケート調査の結果から、長くこの教育音楽祭を存続させていくために、今何をするべきかを考え、実行していく際に参考とすべき多くの示唆が得られたと考えている。

演奏会の際に調査へのご協力をいただいた多くの方々に、心から御礼を申し上げる次第である。

2. 調査実施及び回収状況

2-1. 調査内容と調査票

札幌公演の調査では 2014 年以来の調査との時系列比較を可能とする質問項目とした。また、リンクアップ・コンサート、道内公演、広島公演での調査では、各会場の事情に合わせて追加の設問を設けている。本報告書の付属資料として、使用した調査票を掲載している。

調査票は各会場入り口で配布し、回収は会場内に設置した回収箱で実施した。

なお、2018 年は本調査と同時に経済性調査を実施したが、本報告書では来場者調査の結果のみ報告する。

2-2. 調査実施コンサートと回収状況

2018 年の調査対象コンサートは次ページに示す通りである。

札幌公演

日程	公演名	会場	アンケート 配布枚数	アンケート 回収数	回収率
7月15日 (日)	PMFオーケストラ演奏会 プログラムA ～チャイコフスキー没後125年に寄せて～	札幌コンサートホールKitara	1,679	714	42.5%
7月18日 (水)	PMFリンクアップ・コンサート	札幌コンサートホールKitara	529	261	49.3%
7月20日 (金)	第462回 市民ロビーコンサート	札幌市役所1階ロビー	527	206	39.1%
7月21日 (土)	PMFオーブンドア・コンサート II	札幌コンサートホールKitara 小ホール	239	149	62.3%
7月22日 (日)	PMFオーケストラ演奏会 プログラムB ～バーンスタインの世界～	札幌コンサートホールKitara	1,815	643	35.4%
7月28日 (土)	ピクニックコンサート	札幌芸術の森・野外ステージ	2,384	629	26.4%
札幌計			7,173	2,602	36.3%

道内公演

日程	公演名	会場	アンケート 配布枚数	アンケート 回収数 (入場者数)	回収率
7月14日 (土)	PMFオーケストラ宮小牧公演 プログラムA ～チャイコフスキー没後125年に寄せて～	苫小牧市民会館	825	397	48.1%
7月23日 (月)	PMFアンサンブル函館公演	函館市芸術ホール(ハーモニー五稜郭)	468	56	12.0%
道内計			1,293	453	35.0%

広島公演

日程	公演名	会場	アンケート 配布枚数	アンケート 回収数	回収率
7月31日 (火)	PMFオーケストラ広島公演 ～ゲルギエフ、マーラーを振る～	広島国際会議場 フェニックスホール	779	347	44.5%

札幌公演での調査の概況を以下に示す。実施年により回収率にはばらつきがあるものの、この種のアンケート調査としてはたいへん高い回収率を確保できており、来場者の変わらぬ積極的な姿勢を確認しているところである。

札幌公演における調査の概要

	配布演奏会	配布数	回収数	回答率
2014	8	8,751	3,891	44.5%
2015	6	7,538	3,124	41.4%
2016	5	6,491	2,153	33.2%
2017	6	6,229	2,709	43.5%
2018	5	7,173	2,603	36.3%

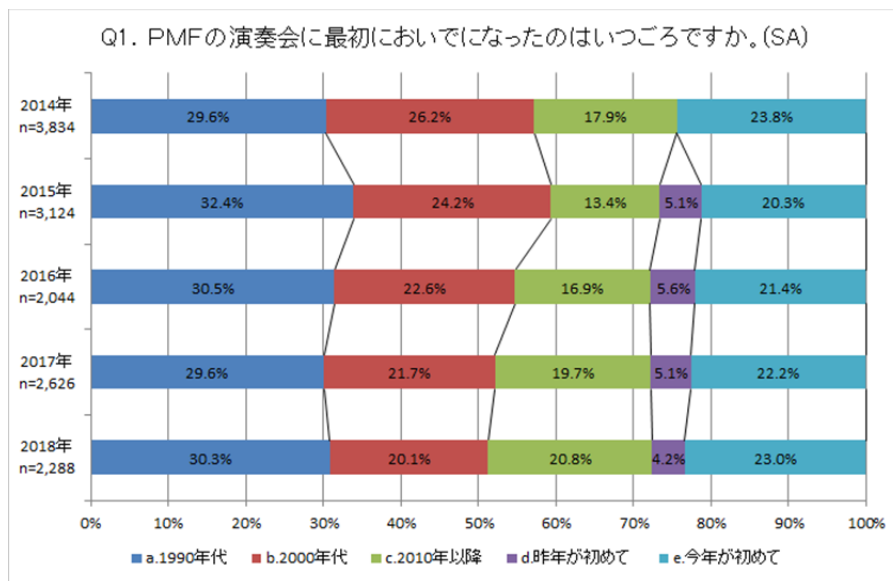
3. 集計結果分析その1 札幌調査結果の時系列比較

3-1. 初来場時期

毎年必ず尋ねている設問である。「2010 年以降」が年々拡大しているのは、1 年ずつ対象年が増えているためであり、その点を考慮すると、全体として大きな変化はなく、初来場時期別来場者構成は安定的に推移していると言える。なお、2014 年は「2010 年以降」に「昨年が初めて」が含まれている。

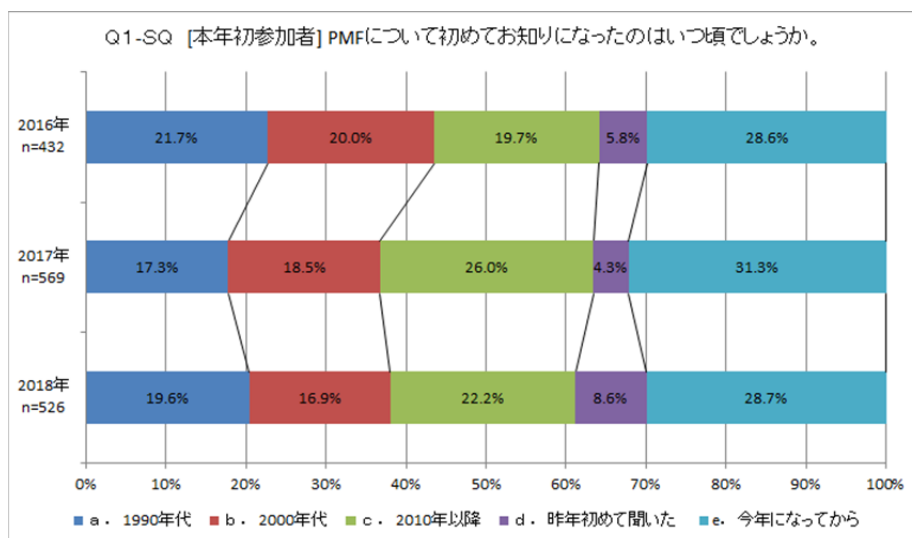
1990 年代初参加が概ね 30%で安定的に推移し、強固な支持層を形成していると考えられる。しかし、1990 年に 40 歳の人も 2019 年には 70 歳となる。加齢に伴い、今後、徐々に比率が下がっていくことになろう。一方、毎年、20%強の初来場者が存在する点に注目しておきたい。演奏会への来場者総数を仮に 3 万人とすると、毎年 6 千人程度の、初めて PMF に接する人たちを確保し続けている。このうち 1,000～1,500 人程度は翌年も続けて来場している計算になり、2000 年以降この傾向が変わらずに推移したとすると 18 年間で 1 万 8 千人～2 万 7 千人の複数年来場者を蓄積してきたことになる。

このような傾向は過去 5 年間で大きな変化が無いことから、演奏会来場という積極的な形での支持層を毎年拡大できているということが出来る。

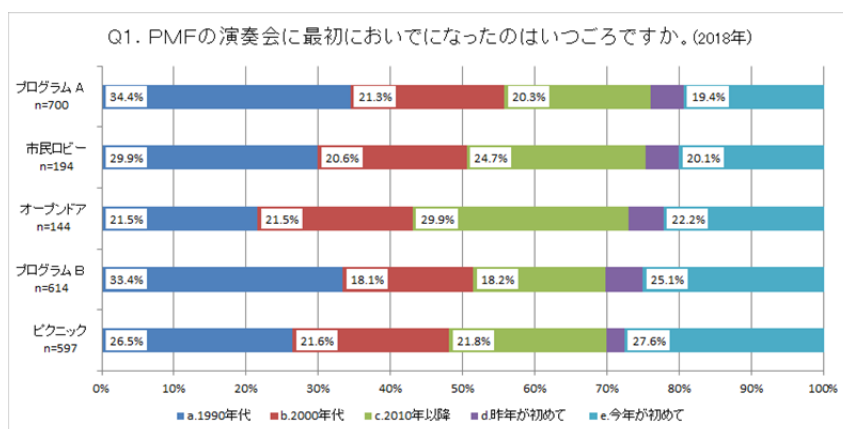


Q1 で「今年が初めて」と回答した回答者に、何時から PMF を知っているかを尋ねている (Q1-SQ)。この結果から、初来場者が PMF の存在を知らなかったわけではないことが確認できる。1990 年代から知っていたとする回答が 20%程度あることから、長く存在は知っていても何らかの理由で来場機会を持てなかった人が大半であることが確認できる。つまり、潜在的な来場者は多く存在すると想定でき、これらの人たちの来場に向けて行動を促す仕掛けを検討することは意味のあることと考えられる。

なお、「昨年初めて聞いた」が2017年の4.3%から8.6%に構成比が2倍に拡大している¹。このことから、昨年来の広報活動への注力の成果が確認できたと考えられる。



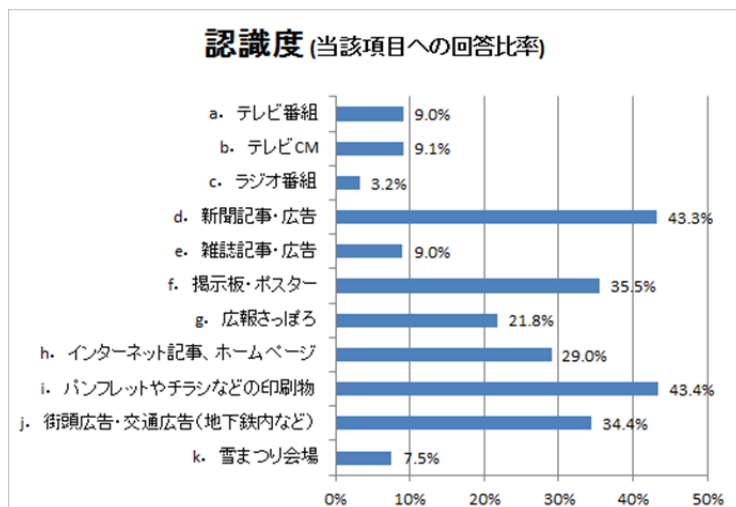
なお、演奏会別に初来場時期を確認すると、ピクニックコンサートは「今年が初めて」の来場者が28%を占め、PMFへの入り口としての機能を果たしていると考えられる。



3-2. 提供情報の認知度、注目度

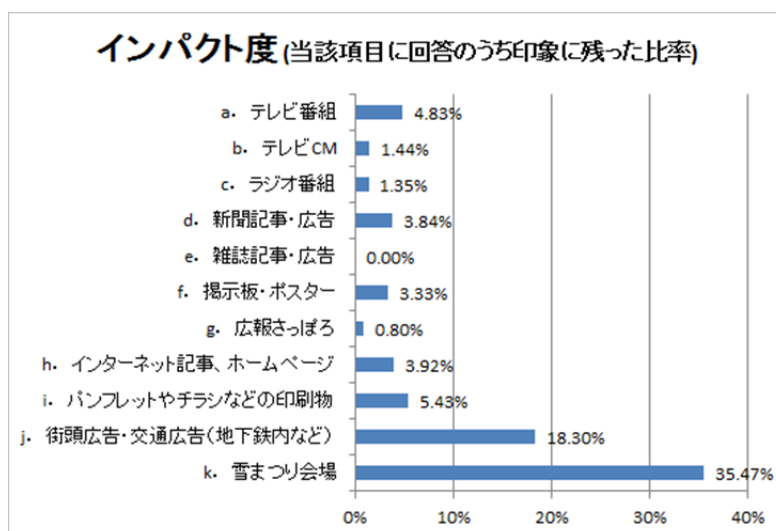
PMFの開催前から様々な媒体を利用した情報提供・広報活動が行われている。この設問では、まず“PMFに関する情報提供で今年お目に留まったもの／お聞きになったものはどれですか”と尋ね、認識した情報源を全て回答するように求めた。次いで、“この中で特に記憶に残ったものはありますか”と記入欄を設けて尋ねた。この設問は項目選択ではなく、自由記入の回答であったので、特にインパクトの大きかった情報源のみが記入されることとなった。ここで認識度は、この設問への有効回答のうち当該選択肢の比率であり、インパクト度は、当該項目を選択した回答の中で記入のあった比率である。

¹ 比率の差の検定で $p = 0.001$ 、有意な差が確認できる。



まず認識度では、新聞記事・広告とパンフレット・チラシなどの印刷物が高い比率で、情報提供手段としての印刷媒体の重要性を示している。同時に街頭広告・交通広告の認識度がインターネット・ホームページを上回る認識度比率であったことに注目する必要がある。特に地下鉄車内でのアカデミー生全員の顔写真入りの広告は注目度が高く²、そのためこの項目はインパクト度でも高くなっている。

インパクト度では雪まつり会場が突出した比率だが、認識度比率は低く、“雪まつり会場に足を運んだ来場者”という限定的なグループへのアピールとなった。ただし、雪まつり会場への来場者の多くが道外、国外からの観光客であることから、PMF の存在を広く知らしめた効果はあったと考えられる。



² ある演奏会で筆者の隣に座った若いカップルが、「地下鉄で日本人が何人いるか数えちゃったよ」と楽しげに話しているのを耳にしたことがある。

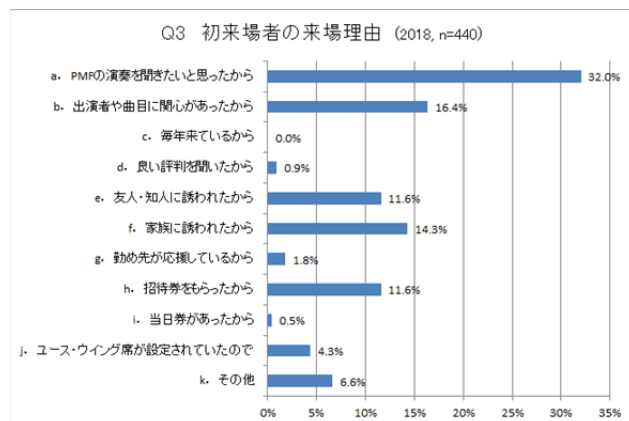
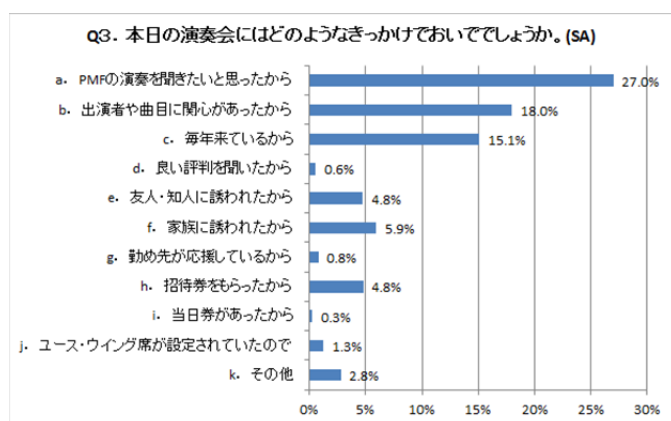
3-3. 演奏会来場のきっかけ

この設問は提示された選択肢から一つを選択することを求めた設問なので、最も当てはまる選択肢が回答されている。

サンプル全体の集計では「PMF だから」(27%)、「毎年来ているから」(15%) の二つの選択肢で 40%を超える回答率であり、「PMF を聴きに行く」という行動が定着している。また、「出演者や曲目に関心があった」とする回答が 18%で、2017 年調査の 10.2%を大きく上回る結果となった。この点は後述する演奏会別の状況で確認する。他の来場のきっかけはいずれも 6%以下で、様々な理由に分散している。

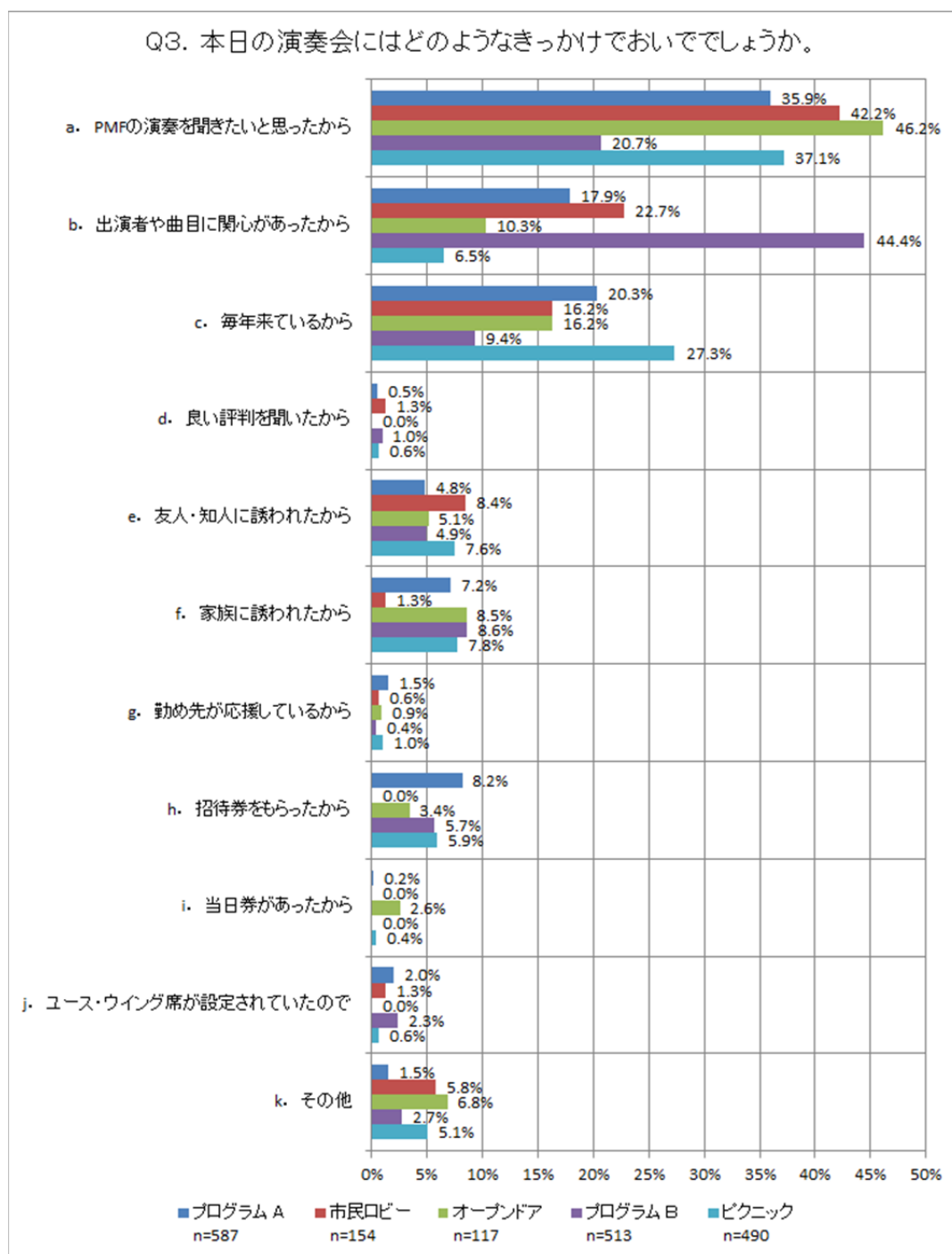
2018 年初来場者の来場のきっかけをみると、「PMF の演奏を聞きたいと思った」が 32%で 1/3 を占めるが、友人・知人や家族に誘われたという理由が 12%、14%と、全体の傾向より格段に高く、近しい人に促されての来場が主要な来場のきっかけとなっている。また、招待券の入手が 12%となり、様々なルートでの招待券の配布が、初来場者を演奏会に引き寄せることになっていることが確認できる。

2018 年に初めて設定されたユース・ウイング席は、キタラ大ホールの定員 2,008 席に対して設定は 166 席、約 8%であった。来場のきっかけとしてユース・ウイング席を選択したのは、全体で 1.3%、初来場者については 4.3%であった。この結果の中にはユース・ウイング席の設定の無い演奏会も含まれているため、プログラム A、B のみで結果をみると、きっかけとしてユース・ウイング席を選択したのは 2.2%、初来場者では 5.7%である。この試みも、初来場者を演奏会に誘導する効果を持ったことが確認できる。



前述の「出演者や曲目に関心があった」来場者が昨年に比べて高かった理由は、演奏会別の集計から明らかである。プログラム B は「出演者や曲目に関心があったから」が 44%と突出しており、「PMF の演奏を聞きたいと思った」が他のコンサートの半分程度の 21%に留まっている。プログラム B は第 1 回以来の五嶋みどり氏の出演が実現し、さらに演奏された曲目は全てバーンスタイン作曲の作品であった。この結果は、明らかに五嶋みどり氏を目当てに来場した聴衆が多かったということである。さらに、オール・バーンスタイン・プログラムということで第 1 回の記憶が鮮明な人、あるいはその評判を身近に聞くこ

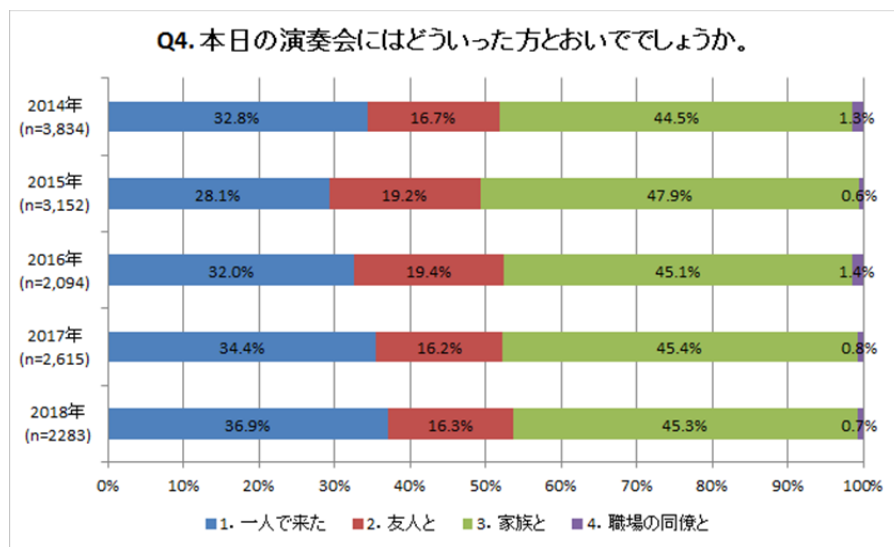
とのできた 1990 年代からの来場者を引き付けることになったと推測できる。両方が相まって、初来場が 1990 年代の来場者の 55%、2000 年代の 47%が「出演者や曲目に関心があった」としている。初来場者でも全体の 16%を大きく上回る 34%がこの選択肢を回答していることから、「五嶋みどり効果」が大きかったと言えよう。



3-4. 来場形態

Q4 は来場の形態を確認する設問で、毎回尋ねている。「一人で来場」が 2015 年以降年々増加し、2018 年は 37% に達している。一方、「家族と来場」は顕著な変動は無く 45% で安定的に推移している。

「友人と来場」は 2015 年、16 年が 19%、その後は 16% で推移している。



3-5. 音楽との関わり

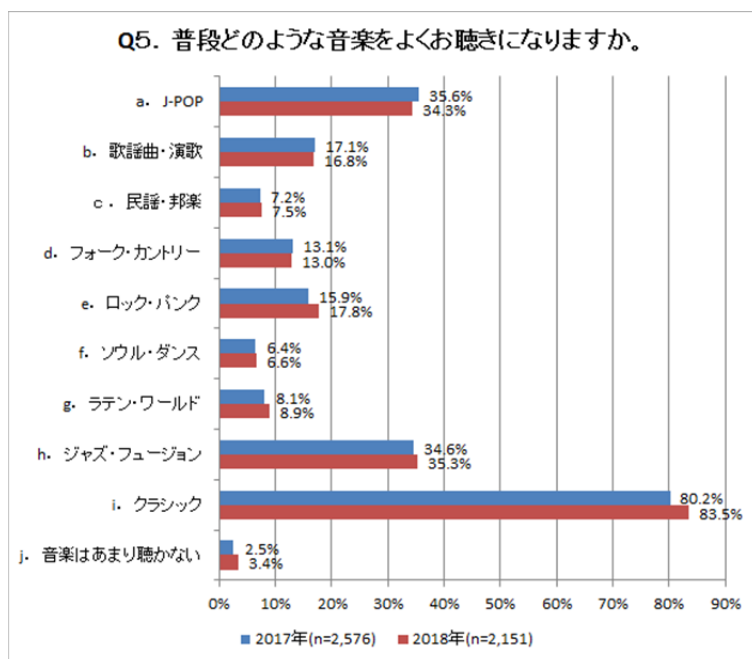
2017 年より、来場者の音楽との関わりを尋ねる設問を設定している。この設問を設けているのは、演奏会来場という形で PMF を支持する人たちの音楽に関わる活動の状況を知ることが重要との認識からである。この設問への回答から、多くの回答者が幅広く音楽に接していることが確認できている。

(1) 普段良く聴く音楽ジャンル

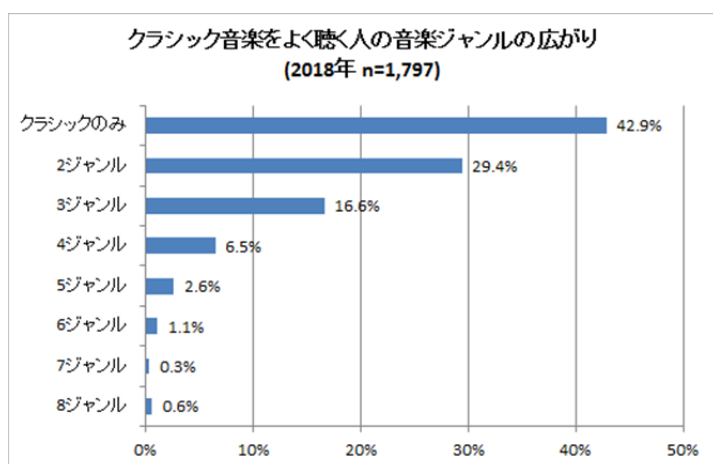
普段良く聴く音楽ジャンルとして 9 ジャンルの選択肢を用意した。PMF 演奏会への来場者を対象とした調査であるので、クラシック音楽が突出して高い比率になっているのは当然の結果である。クラシック音楽以外のジャンルもよく聴かれていることが確認できる。特に J-POP、ジャズ・フュージョンは 30% を超える回答である。

2017 年、2018 年と 2 年連続で同じ設問に回答をいただいた。概ね傾向は変わらない³。

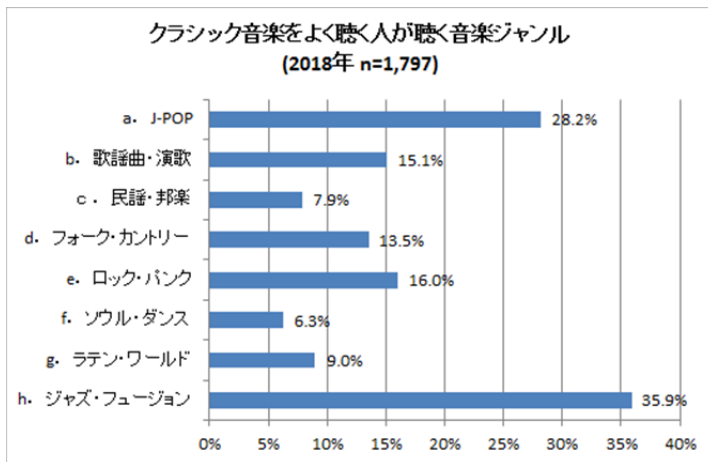
³ 2017 年調査結果の集計で、「d.フォーク・カントリー」、「e.ロック・パンク」の 2 項目に集計ミスがあった。お詫びして訂正する。



クラシック音楽をよく聴くとする回答者が同時にどのようなジャンルの音楽を聴いているかを確認したのが次の図である。クラシック音楽のみで他のジャンルの音楽はあまり聴かないとの回答は 43%であり、半数を超える 57%の回答者は他のジャンルの音楽もよく聴いているとの結果である。多くはクラシック音楽に加えて 1～2 のジャンルであるが、中には大変幅広くいろいろなジャンルの音楽に親しんでいる人もいる。



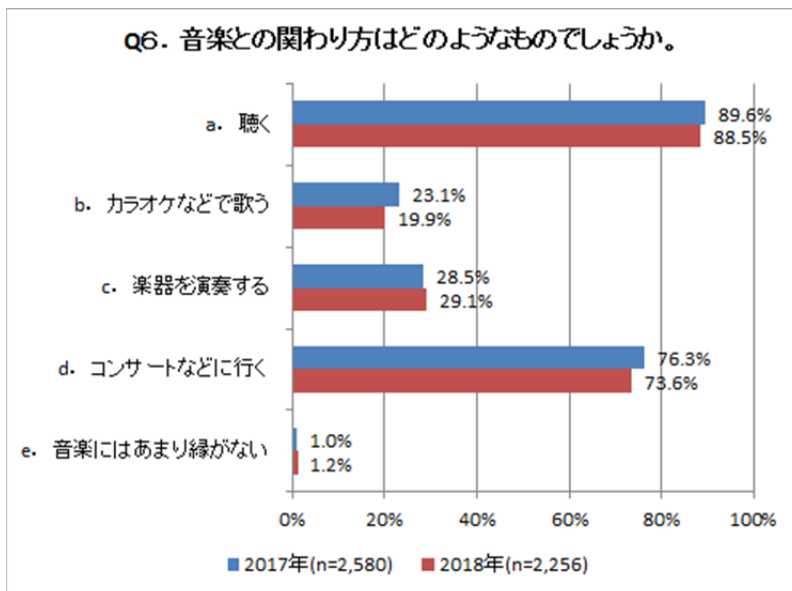
クラシック音楽をよく聴く人たちが同時に親しんでいる音楽ジャンルは、ジャズ・フュージョンと J-POP が中心だが、選択肢として用意した全てのジャンルが対象となっている。このことから、幅広く多様なジャンルの音楽を楽しむ姿を垣間見ることができる。



注 クラシック音楽をよく聴くとした回答者の他のジャンル回答の比率。

(2) 音楽との関わり

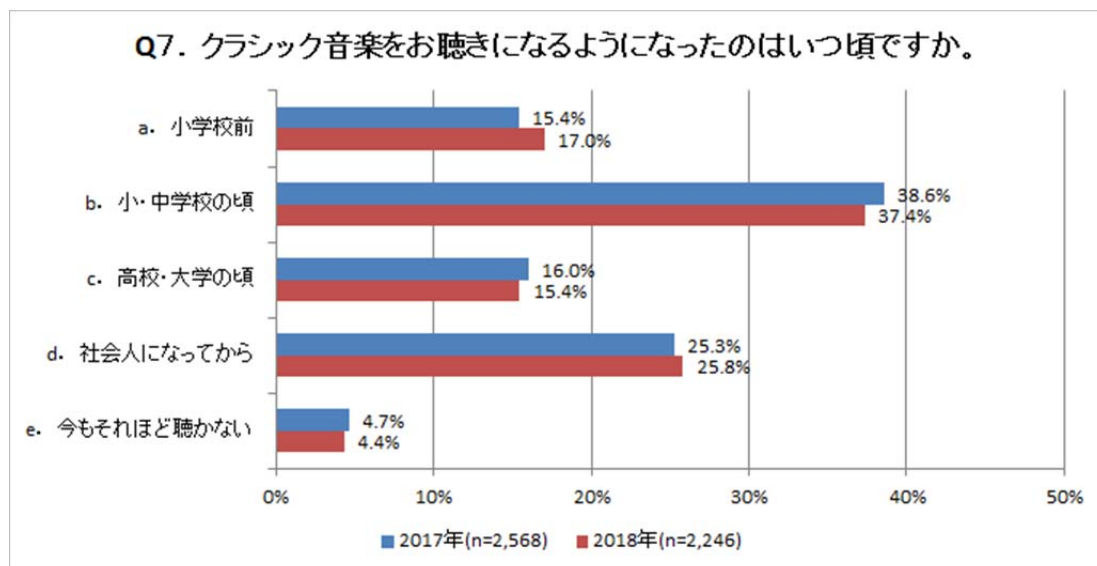
音楽に関連した活動を尋ねた設問である。全体として2017年の結果と大きく変わらない。インターネットを含む様々な媒体を通して「聴く」との回答が89%で、音楽の“消費”が幅広く行われている。次いで、「コンサートなどに行く」という会場まで出向くという物理的な移動を伴うという意味でより積極的な行動は74%と、回答者のほぼ3/4がこのような活動を行っている。また、「歌う」、「演奏する」という直接的な行動は20~30%である。



(3) いつからクラシック音楽を聴くようになったのか

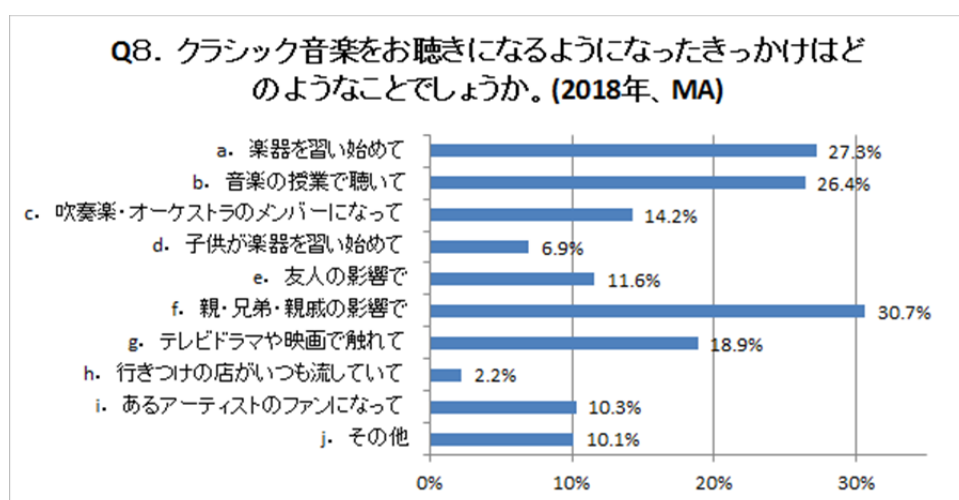
クラシック音楽に親しむようになった時期は、小中学校（37%）と社会人（26%）になってからと、年齢的には二つの時期に分かれている。就学前と高校・大学の時期ではそれぞれ15%程度の回答であり、義務教育期間中のクラシック音楽への接触が大きな意味を持

つと解釈できる。この点から、小学生を対象としたリンクアップ・コンサートの意義は大きいと考えられる。



(4) クラシック音楽を聴くようになったきっかけ

クラシック音楽に親しむきっかけには多様な契機があるが、親・兄弟・親戚の影響が31%で、近しい人の影響が最も大きい。おそらく日常の中にクラシック音楽がある事による効果であろう。同時に「楽器を習い始めて」と「音楽の授業で聴いて」が27%、26%と僅差で続いている。学校教育の中での音楽とのふれあいが意味を持っていることを示しており、ここからもリンクアップ・コンサートの意義を確認できる。また、自身ではなく子供が楽器を習い始めたことからクラシック音楽に親しむようになったとことも確認できる。



3-6. 舞台芸術の鑑賞状況

PMF 演奏会への来場者の多くは、様々な舞台芸術を鑑賞されている。PMF 以外でもクラシック音楽の演奏会には平均で 7 回弱という結果で、2 か月に 1 回+という頻度で鑑賞されている。さらに、回答者の 88%が少なくとも 1 回は PMF 以外でクラシック音楽の演奏会に行かれている。

選択肢として提示した舞台芸術の鑑賞は、いずれも年間 1 回以上となっている。この設問では、札幌市内での鑑賞かどうかは確認していない。しかし、札幌では鑑賞機会が多く提供されていること、公演会場へのアクセスが容易なことがこの結果の背景として存在するのであろう。ただし、活動人数比で見ると「c.オペラ・バレエなど」は 24%とその他を除けば比較的低い参加率となり、平均回数も 1.8 回と 2 回に届いていない。

Q9. PMFの演奏会以外の舞台芸術鑑賞回数。

	平均回数	活動人数	活動人数比
a. クラシック音楽の演奏会(PMFを除く)	6.75	1,703	88.3%
b. クラシック以外の音楽ジャンルの演奏会・コンサート・ライブ	2.82	1,079	56.0%
c. オペラ・バレエなど	1.79	457	23.7%
d. 演劇・ミュージカル	2.09	634	32.9%
e. その他	4.45	96	5.0%
回答者計		1,928	

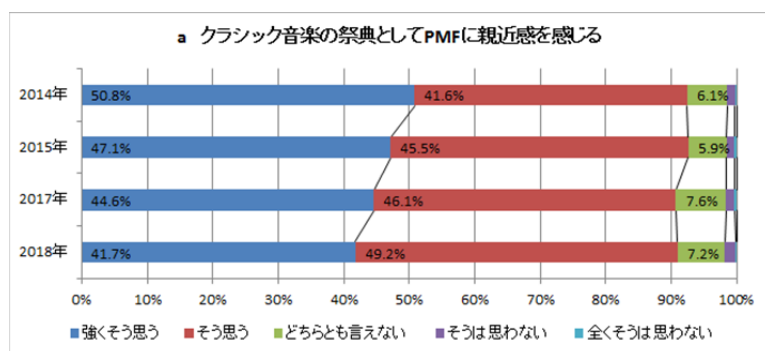
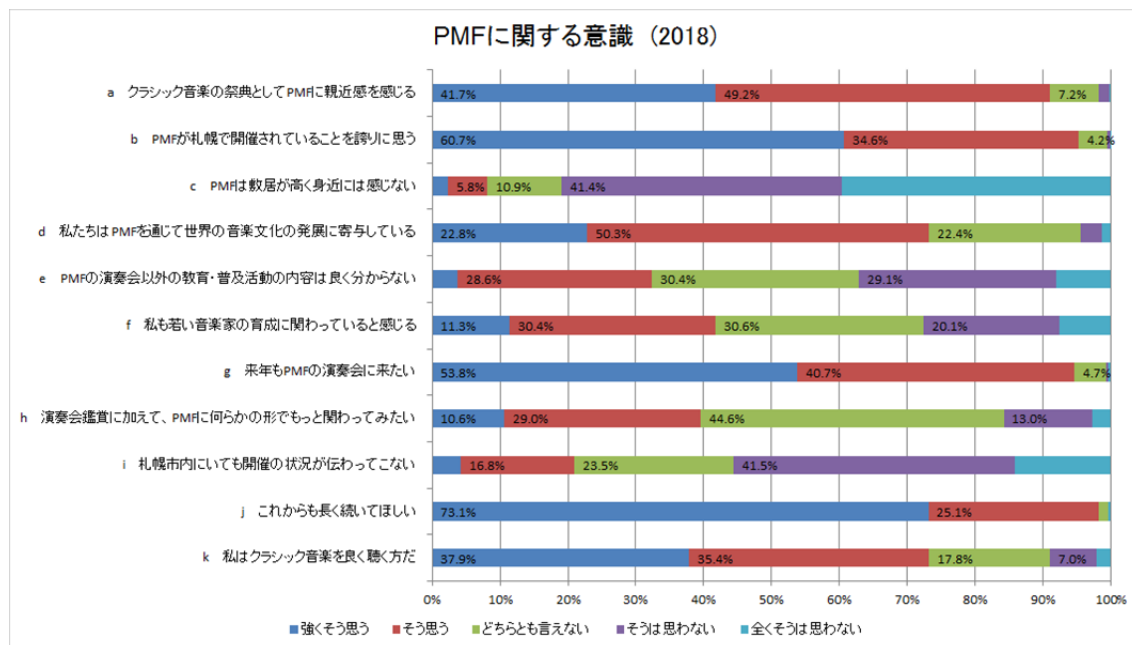
3-7. PMF に関する意識

2014 年の調査開始以来、2016 年を除いて毎回、設問項目を取捨選択しながら PMF に関する意識調査を継続してきた。2018 年調査では、これまでの結果と同様、「強くそう思う」、「そう思う」を合わせた肯定的回答から、PMF に対する強い支持を確認できる。なお、2015 年までの調査では 5 件法⁴の選択肢として、「全くそう思う、そう思う、どちらとも言えない、そう思わない、全くそう思わない」と表記していたが、2017 年調査以降では「全くそう思う」を「強くそう思う」と表記している。「全く」と「強く」という表現の違いが多くの項目で回答行動に影響したと考えられるが、2014 年から 2015 年、2017 年から 2018 年の時系列変化についてはこれだけでは説明できないので、今後の調査で慎重に推移をみていく必要がある。ただし、「強くそう思う、そう思う」の肯定的意見全体では大きな変化は見られないので、来場者の中で PMF への支持が低下しているという結論にはならないことは明確である。

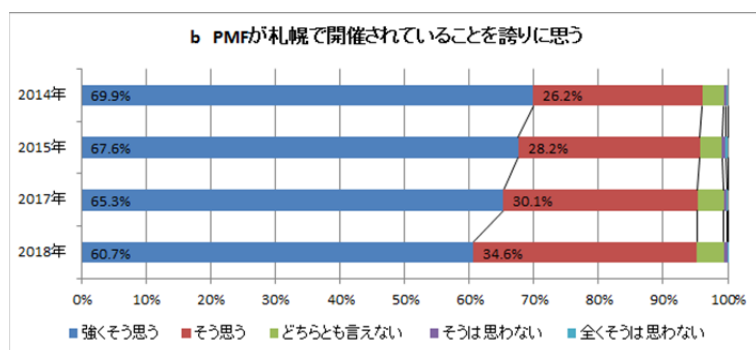
今回の調査では「クラシック音楽をよく聴く」を含めて 11 項目について、5 件法で意識を尋ねている。このうち PMF の開催理念に関係する項目 d と項目 f を比較すると、聴衆の一人としての積極的な意味はなかなか理解してもらうのが難しいことが分かる。厳しい聴

⁴ 「強くそう思う」、「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そうは思わない」、「全くそうは思わない」の 5 段階で、自分の意見に最も近い選択肢を選ぶように求める方法。

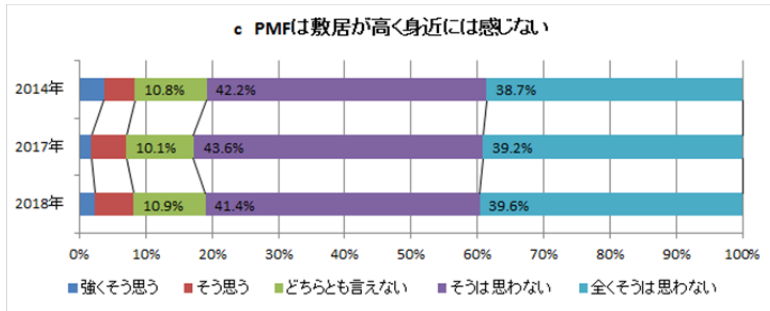
衆として演奏を聴くことこそが音楽家を育てることになることについてもっと認識されても良いだろう。



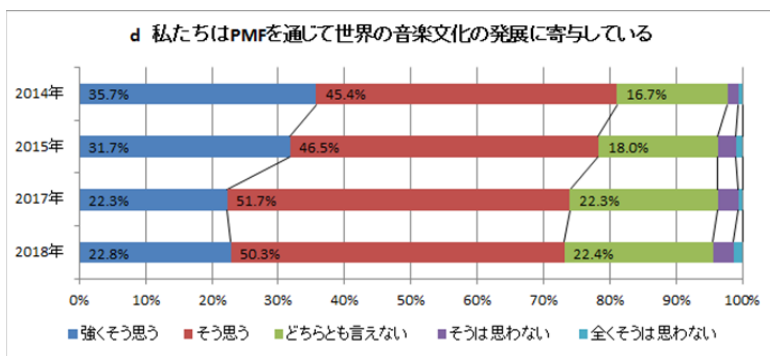
PMF に対する親近感は 90%を超える回答者が感じている。2014 年以降変わらずにこの傾向が続いていることから、PMF に対する支持は揺るぎないものとなっている。



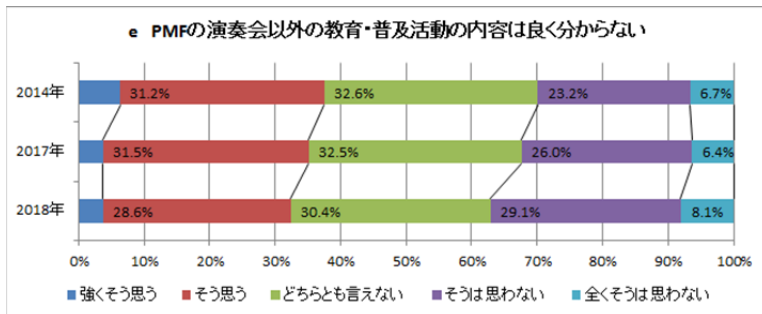
95%の回答者が札幌開催を誇りに思うとしている。否定的意見は 2018 年調査では 0.6%で、2014 年以降ほぼ同水準である。



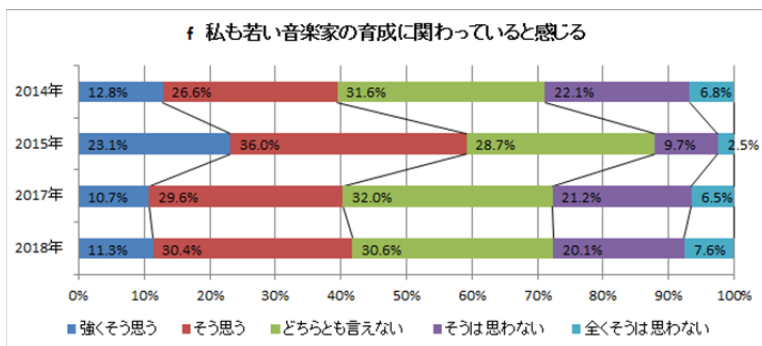
敷居が高いと感じる回答者は10%以下で、演奏会来場者にとって馴染みのある催しとなっている。



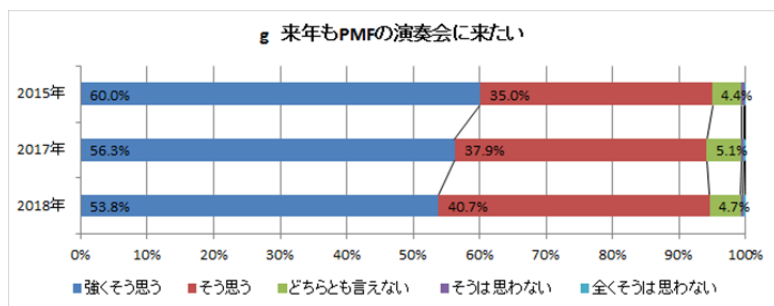
“私たち”という表現で、PMFを支持する人全体で、という意味を持たせたが、肯定的意見が73%である。中立的意見が時系列的に見るとやや増えている。



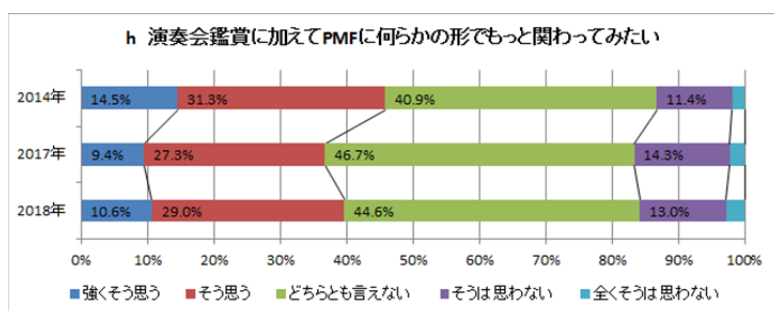
PMFは演奏会以外にも様々な活動を展開しているが、それらの活動の認知度である。“よく分からない”とする回答は減少しており、全体像の理解が進んでいる。



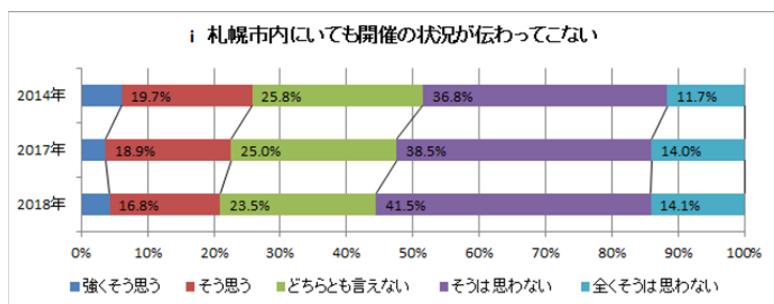
“私”自身が直接かかわっていると感じるかどうかという強いコミットメントを尋ねている。2015年を除いて肯定的意見は各年40%強である。否定的意見は2018年に28%で、中立的意見よりも少ない。項目dの結果と比較すると、肯定的意見は30%ポイントほど低いことが確認できる。



肯定的意見が95%で回答者の圧倒的多数が来年の来場を望んでいる。否定的意見は0.6%ほどである。

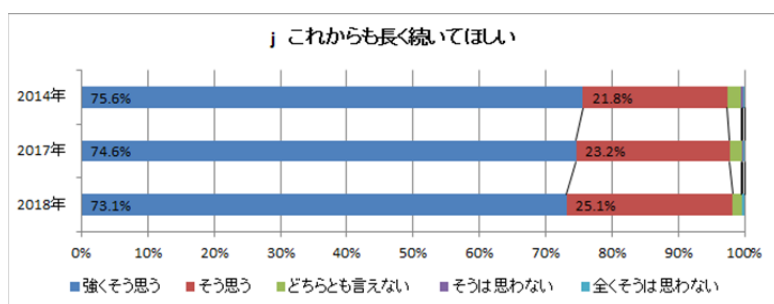


より積極的にPMFに関わりたいとする回答が40%ほどである。

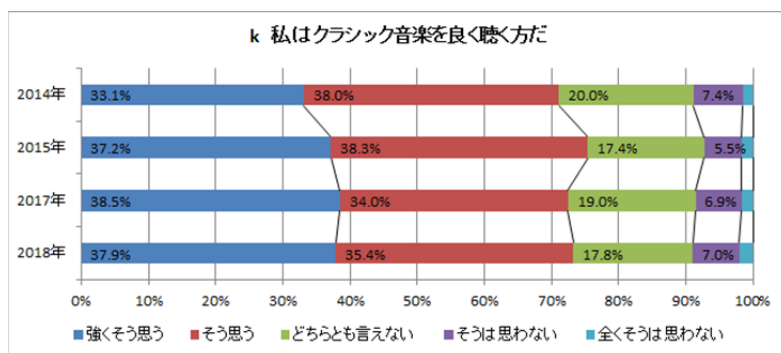


“伝わってこない”とする回答は減少し、“伝わってくる”とする回答が増加して、2018年には56%である。演奏会来場者はPMFへの関心を有する人たちであると考えられるので、関心層

への情報提供は着実に効果を上げていると考えることが出来る。

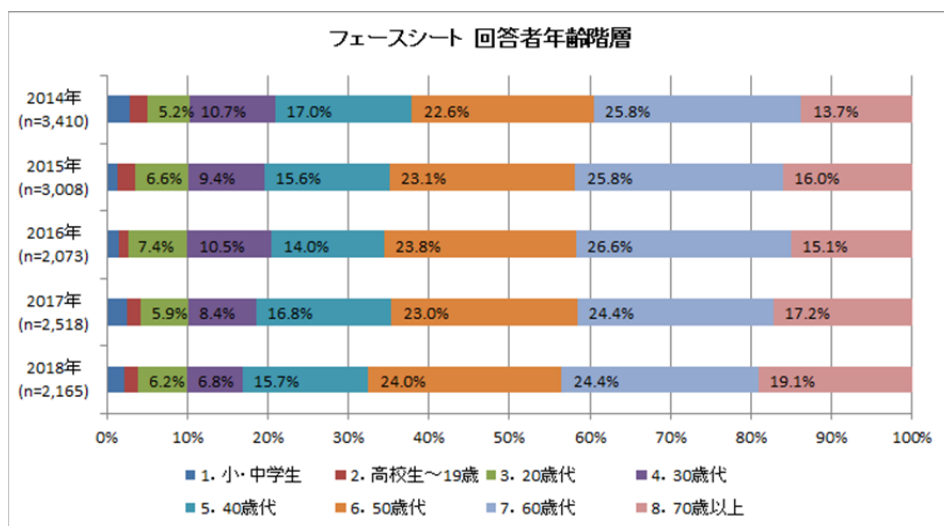
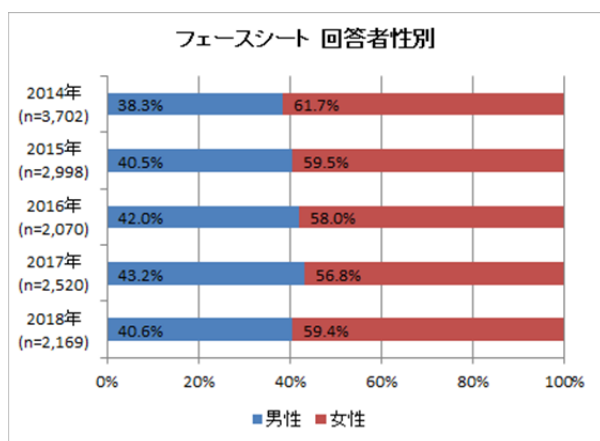


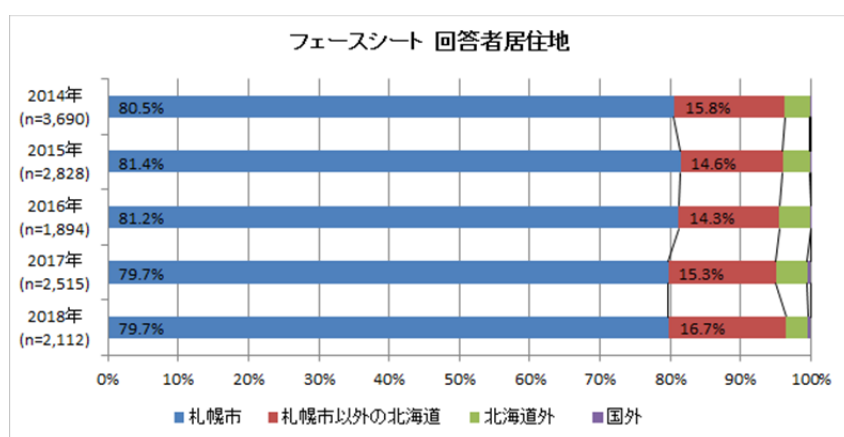
肯定的意見が圧倒的で、否定的意見は0.5%である。演奏会来場者のPMFに対する強い支持を示す結果である。



自身クラシック音楽を“良く聴く”と考えるかどうかを尋ねたもので、肯定的意見が70%を超えている。

3-8. フェースシート



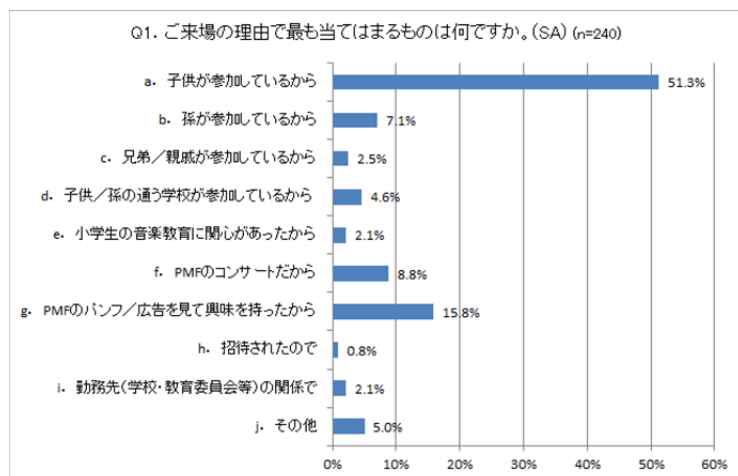


4. 集計結果分析その2 リンクアップ・コンサートの来場者調査

札幌市内小学校の生徒を対象としたリンクアップ・コンサートへの来場者を対象としたアンケート調査である。2018年に初めて実施した。来場者の調査であり、参加した生徒や各学校の関係者を対象とした調査ではない。

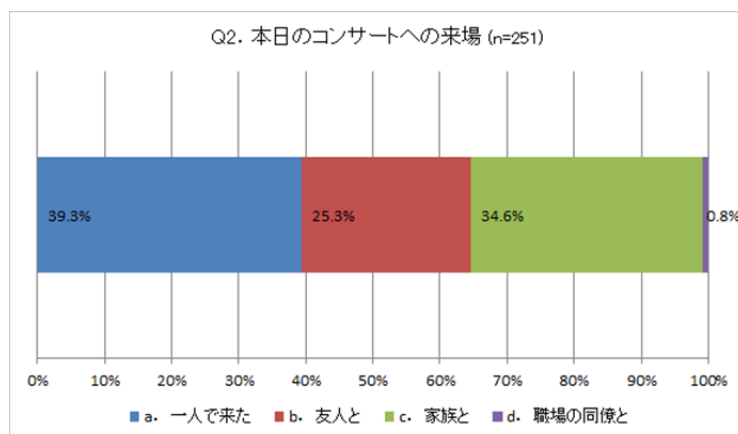
4-1. 来場理由

子供が参加しているとの理由が51%で、来場者の半数が参加生徒の親であった。親族の参加が理由の来場者は61%となる。来場理由で2番目、3番目は「PMFのパンフを見て興味を持った」、「PMFのコンサートだから」という理由であった。PMFの活動の一環として認識し、来場された方が25%、来場者の1/4に達したことは留意しておく必要があろう。



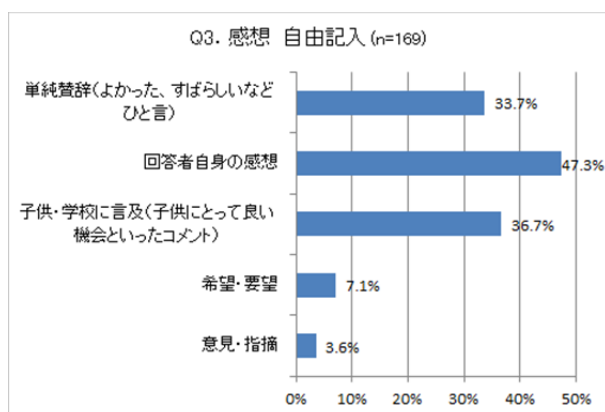
4-2. 来場形態

来場形態は、「一人」、「友人と」「家族と」で札幌演奏会の結果と比較すると、「友人と」が9%ポイント多く、「家族と」が10%ポイント少ない結果である。リンクアップ・コンサートが平日午後という時間帯での開催であったことでこのような結果となった。



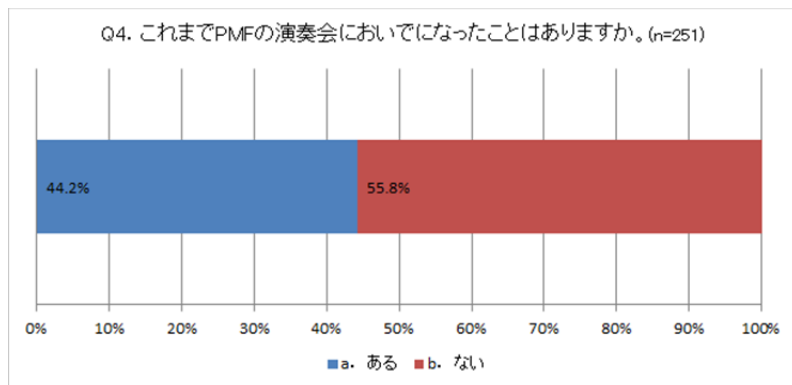
4-3. コンサートの感想

「本日のリンクアップ・コンサートは如何でしたでしょうか。ご感想をご記入ください。」と尋ね、自由記入欄を用意した。記入内容で最も多かったのは回答者自身の感想で、「とても素敵でした。コンサートやクラシックは初体験でしたが、わかりやすく、参加しやすく、とても身近に感じられました」、「生の演奏は、ステキでした、迫力がありました」といった感想が多く寄せられた。子供や学校への言及があった記入例としては、「子供が参加しています。本物にふれるとてもいい経験ができたと思いますこの様な貴重な体験をさせて頂きありがとうございました」、「プロと子ども達と一緒に一つの曲を演奏する姿はとても良かったです。生のオーケストラの演奏を見聴く機会をもっと増やして欲しい（子どもが）」といったコメントである。希望・要望では「子供たちに向けてのプログラムは素晴らしいと思います。大人にもこのようなわかりやすいクラシック紹介があると良いですね」といったコメントに加えて、長く続けて欲しい、機会あればまた参加したい、といったコメントである。意見・指摘に関しては、「小6よりも、もう少し下の学年でも良かったのでは」、「ふるさとでは会場全体で歌えばよかったと思います。バーンスタインについて少しふれても良かったのでは」といった意見や指摘があった。

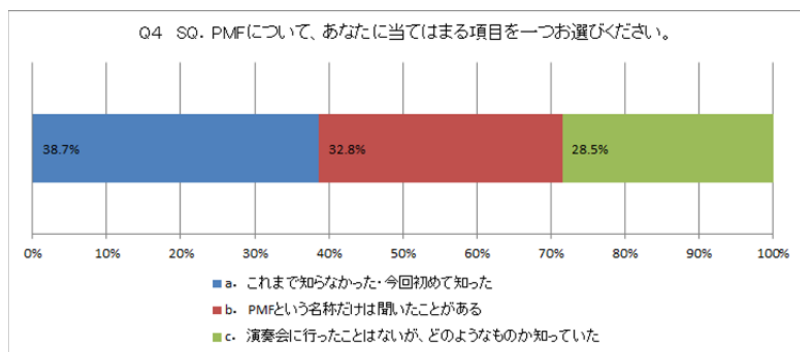


4-4. PMF への来場経験

44%が来場経験あり、56%がなしという結果であった。来場者の中心は参加生徒の父兄や親族であったが、半数に近い来場者が演奏会への来場経験を持っている。

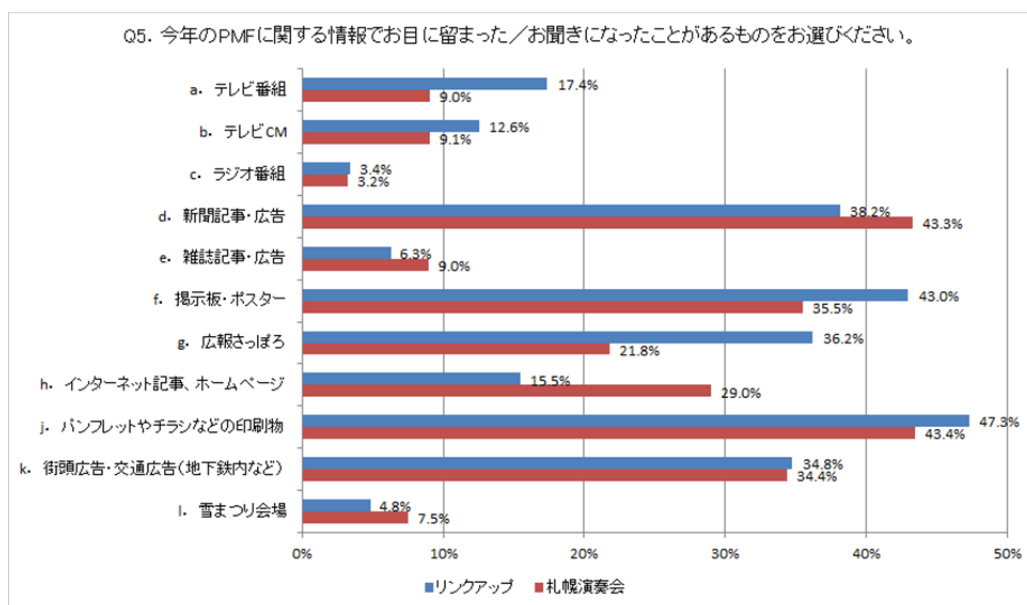


この設問の SQ では、来場経験なしと回答した回答者に対して、PMF の認知度を確認した。PMF についてこれまで知らなかったとする回答は 39%で、61%は PMF について何らかの知識を持っていた。リンクアップ・コンサートの本来の目的ではないが、PMF 支持層の基盤を拡充するための一助となっていると言えよう。



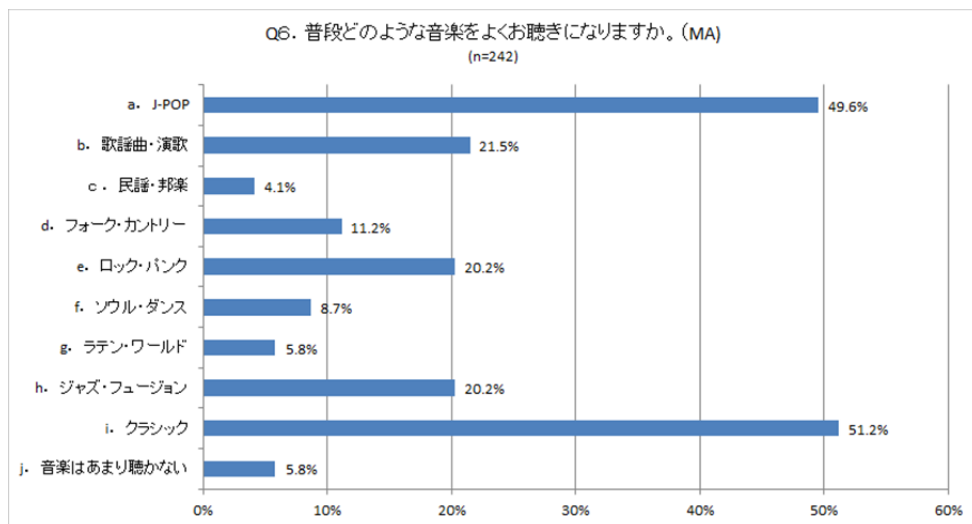
4-5. 認知した情報源

札幌演奏会場での調査と同様の設問である。札幌演奏会の結果と大きく異なるのが、テレビ、掲示板・ポスター、広報さっぽろ、インターネットメディアである。演奏会来場者は概ね PMF について知識があり、関心がある人たちで、ダイレクトに情報入手が可能なインターネットメディアの利用が多い。対して、リンクアップ・コンサート来場者は必ずしも PMF に深い関心を寄せる層ではないとすると、既存マスメディアや広報さっぽろ経由の情報に目を留めることになると考えられる。このことから、PMF の支持基盤の拡充には既存メディアの活用もおろそかにはできないと言えそうである。

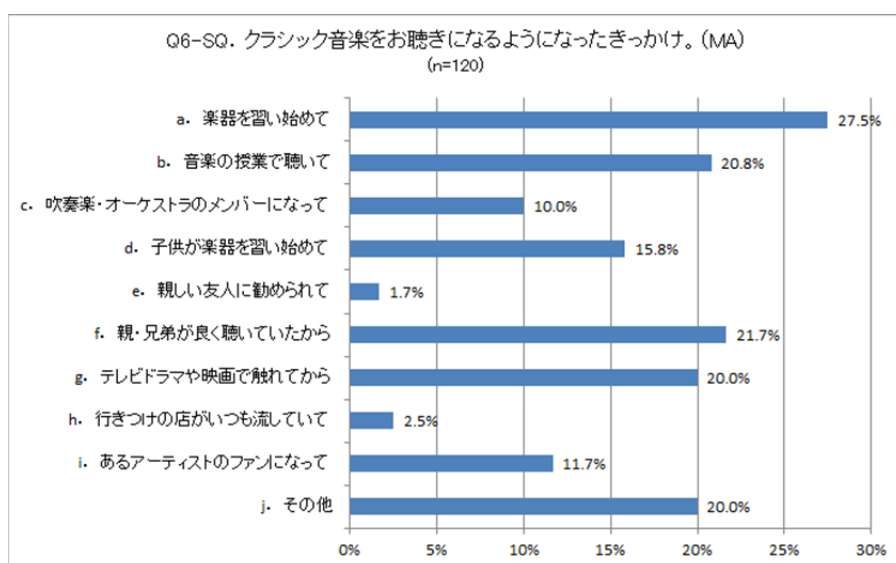


4-6. 音楽との関わり

よく聴く音楽ジャンルでは、クラシックとJ-POPが51%、50%で拮抗し、次いで20%で歌謡曲・演歌、ロック・パンク、ジャズ・フュージョンとなっている。札幌演奏会場の調査結果とはかなり様相が異なり、一般の市民像に近い来場者と見る事が出来るだろう。それでも4-4で見たように44%が演奏会への来場経験があることから、PMFは相当に市民に浸透していると推測してもよさそうである。

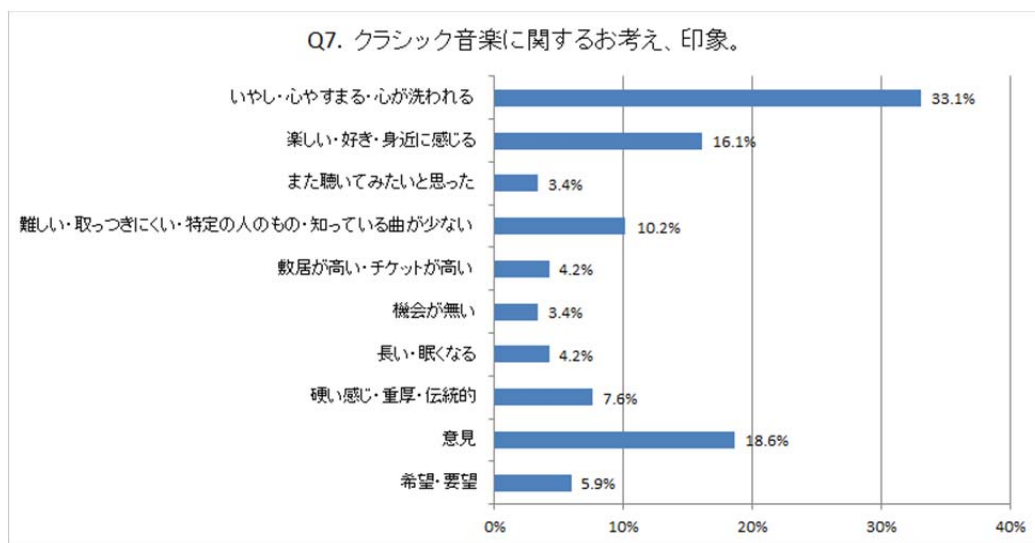


Q6でよく聴く音楽ジャンルとしてクラシックを選択した回答者に、SQとしてクラシックを聴くようになったきっかけを尋ねた。札幌演奏会場での結果(p.11 参照)と比較すると、親族(札幌演奏会では31%)や親しい友人(札幌演奏会では12%)の影響は低く、一方、「子供が楽器を習い始めて」が札幌演奏会場の7%に対して下図のとおり16%と比率で倍になっている。

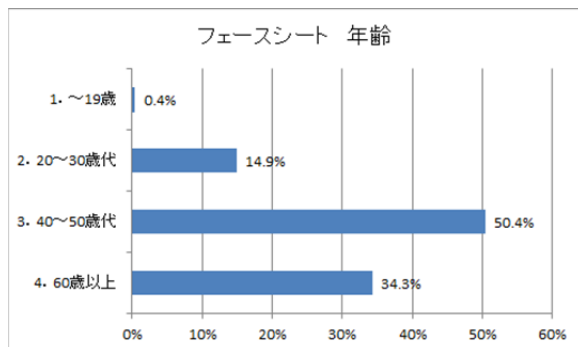
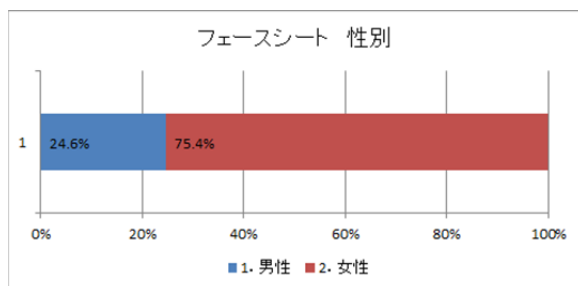


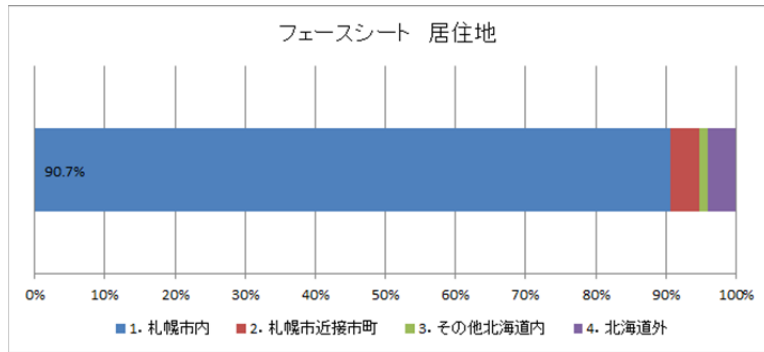
4-7. クラシック音楽の印象

最後の設問としてクラシック音楽に関する考えや印象を、自由記入の形で尋ねた。回答は118件寄せられた。内容を分類した結果が下図である。肯定的なコメントと共に、否定的なコメントも多く寄せられた。全体として率直な意見が寄せられたと考えられる。クラシック音楽に対して、難しい、敷居が高い、かたい感じ、眠くなるといった点は、正直な感想であろう。4-3で見たとおり、このリンクアップ・コンサートではこのような印象、感想は持たれなかったようであるが、これらの点をどのように乗り越えていくかがPMFのみならずクラシック音楽界の課題であろう。



4-8. フェースシート



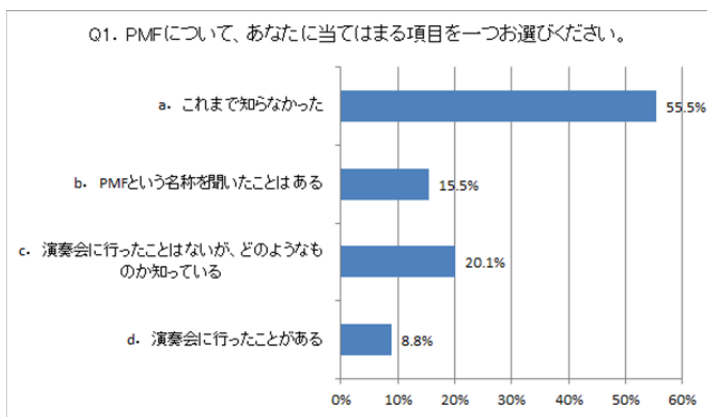


5. 集計結果分析その3 広島演奏会の調査結果に関する分析

広島での演奏会は札幌での全日程が終了後、2018年7月31日に広島国際会議場フェニックスホールで開催された。会場入り口で調査票を配布し、終演後の出口で回収を行った。

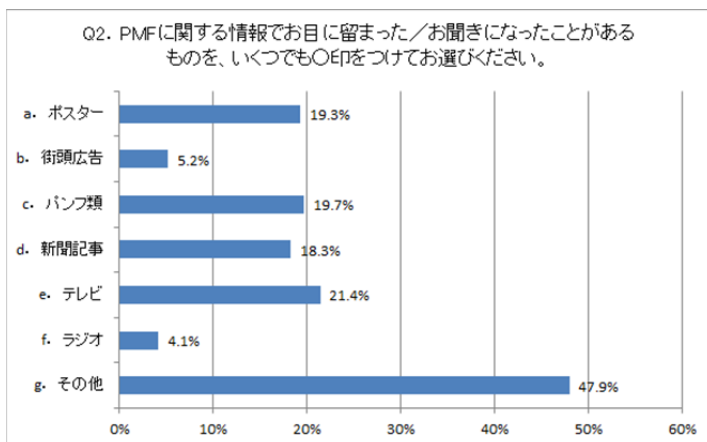
5-1. PMF の認知度

来場者の56%はこれまでPMFについて知らなかったとしている。しかし、毎年演奏会が定期的に行われるわけではない都市での演奏会への来場者の44%がPMFについて何らかの知識を有していて、うち9%は実際にPMFの演奏会に行ったことがあるとしている。演奏会への来場者の半数強に対して、PMFを知らしめる効果を持ったと考えることもできるが、全国的な視野でPMFの認知度を上げていくことは中長期的な課題であろう。



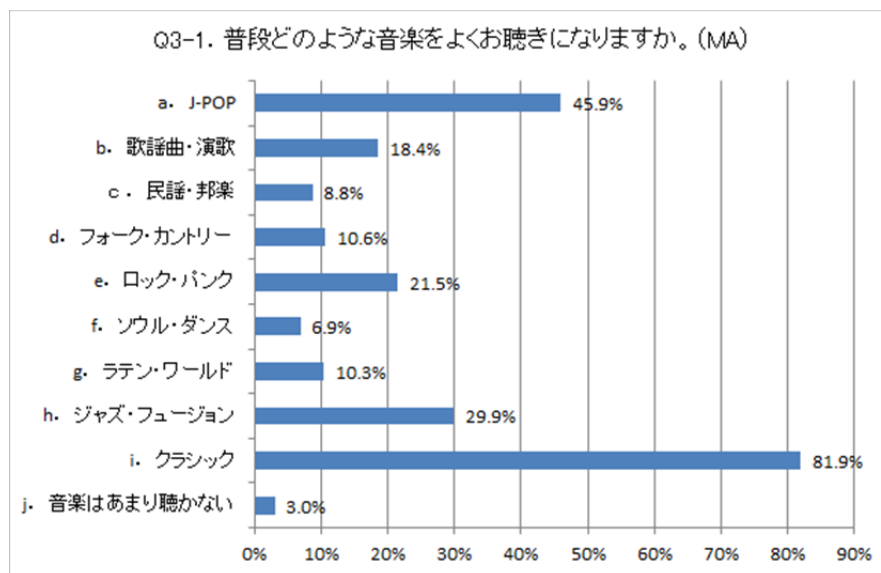
5-2. 情報提供

既存メディア、マスメディアを中心に情報源の確認を行った。テレビ、新聞のマスメディアとポスター、パンフ類がほぼ同水準で認識されている。一方、その他は48%であるが、この中にはPMFの公式サイトを含むインターネットメディアや音楽関連団体による情報提供などが含まれる。

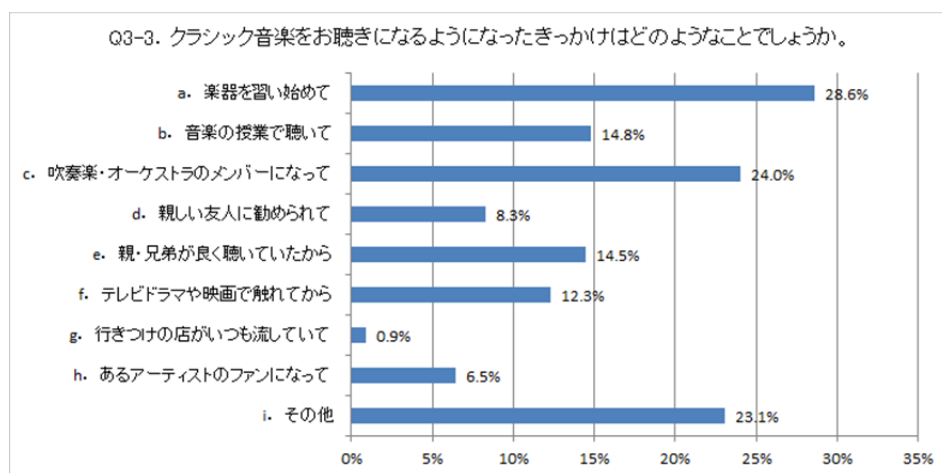


5-3. 音楽との関わり

札幌演奏会での調査結果と比較すると、J-POP の比率が 10%ポイントほど高いが、全体の傾向は概ね同様の拡がりを持っている。札幌の結果と重ね合わせて、クラシック音楽のファンは、同時に様々なジャンルの音楽に親しんでおり、幅広く音楽を楽しんでいることが明らかである。

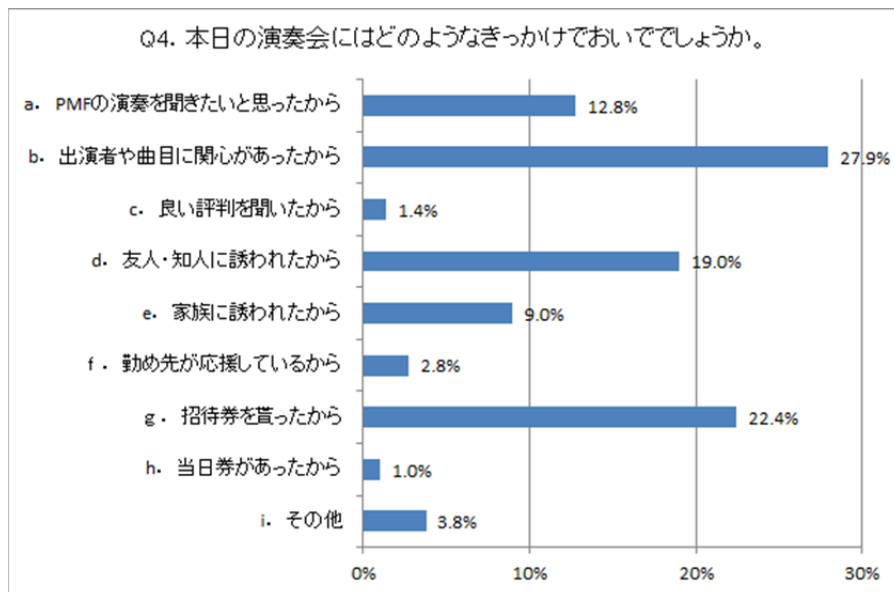


クラシック音楽を聴くようになったきっかけに関して、札幌の調査結果と異なり、親族など近い人の影響より、「楽器を習い始めて」、「吹奏楽・オーケストラのメンバーになって」の比率が高い。これは次に見るように招待客の比率が比較的高く、その多くが音楽関係者であったであろうことを反映していると推測できる。



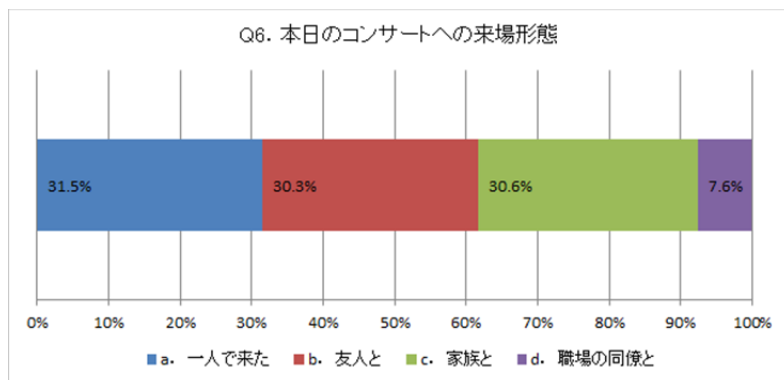
5-4. 演奏会来場のきっかけ

来場のきっかけは出演者や曲目への関心によるとするものが28%、ついで招待券が22%であった。一方、PMFだからという理由は札幌より格段に低く、ここに定期的な公演の地ではない都市での公演で、しかも一回の公演であることの特徴が出ている。招待券による来場が多いことはPMFの存在を、認識してほしい人たちに伝えるという意味では大きな意味がある。



5-5. 来場形態⁵

全体の傾向は札幌の調査結果と異なり、「家族と」が少なく、「職場の同僚」が8%となっている点である。招待券による来場者が比較的多かったことにもよると考えられるが、来場のきっかけで「勤め先が応援」が3%弱であることから、音楽関係者であると推測される。この点もPMFの認知度向上の観点からは意味を持つと考えられる。



⁵ 調査票でQ5が欠番のため、これ以降は節番号と設問番号がずれている。

5-6. クラシック音楽演奏会への来場頻度

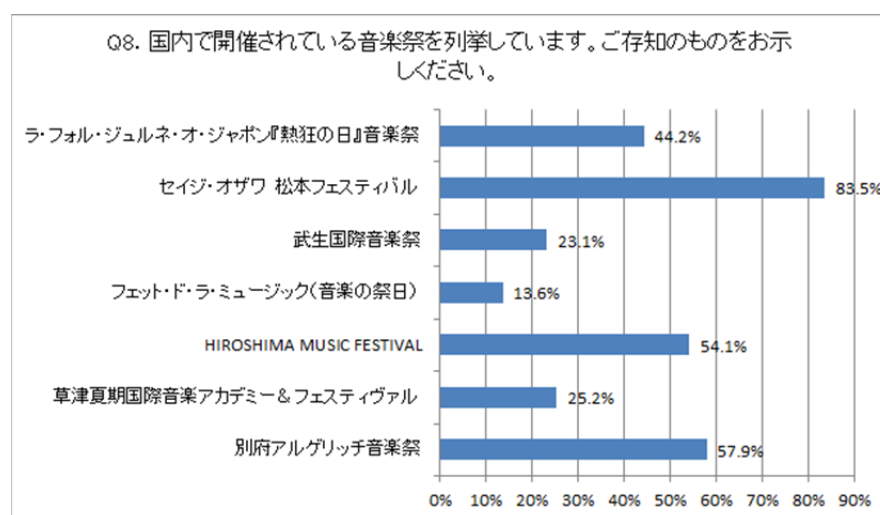
347 サンプルのうち 288 サンプルに回答があり、平均は回答者の平均である。7 回弱という結果で、札幌の調査結果と同水準である。回答の中の最大回数は 90 回で、これは年間通して 4 日に 1 回という頻度になり、特別なケースであろう。表示した平均回数はこのデータも含む平均である。

Q7. クラシック音楽の演奏会には年間何回くらいおいででしょうか。

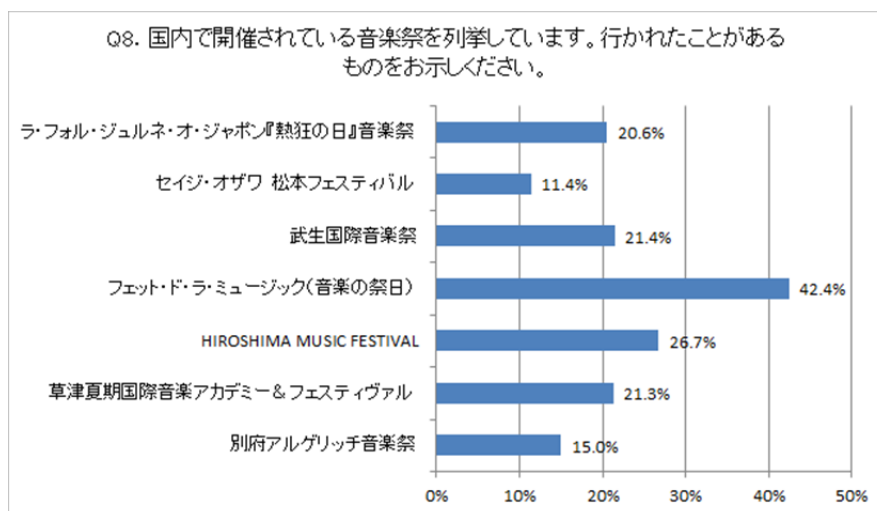
平均回数	6.86 回
最大回数	90 回
回答数	288 人

5-7. 国内の音楽祭の認知度、参加率

国内で開催されているクラシック音楽祭を列挙し、それぞれの認知度と参加度合を尋ねた。「セイジ・オザワ松本フェスティバル」の認知度はたいへん高く、全国的に認知されている状況がうかがえる。

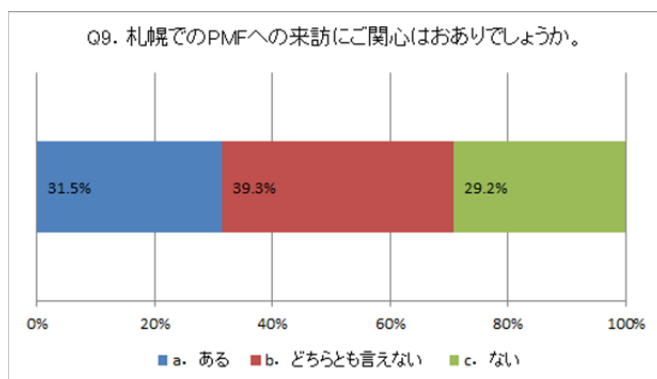


「知っている」と回答した中で実際に参加したことがあるかを次に確認している。フェット・ド・ラ・ミュージックが参加率で 42%と最も高い結果となった。

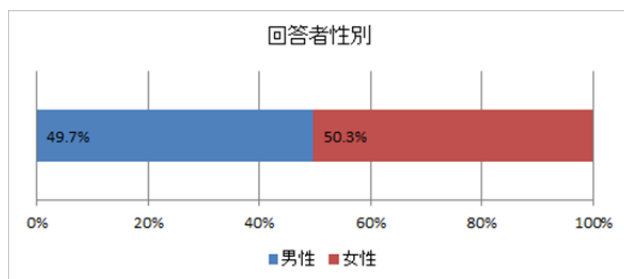


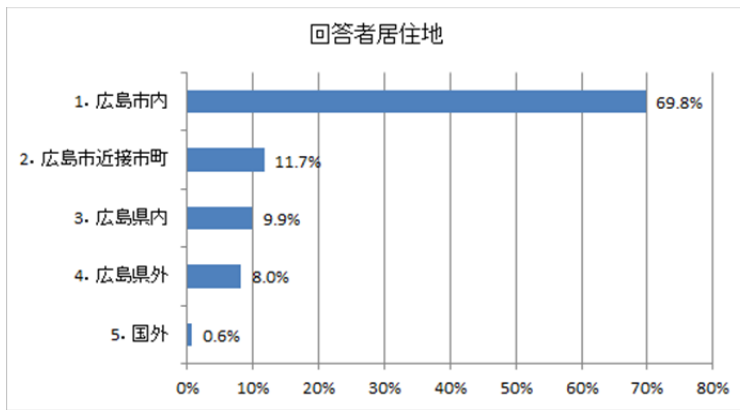
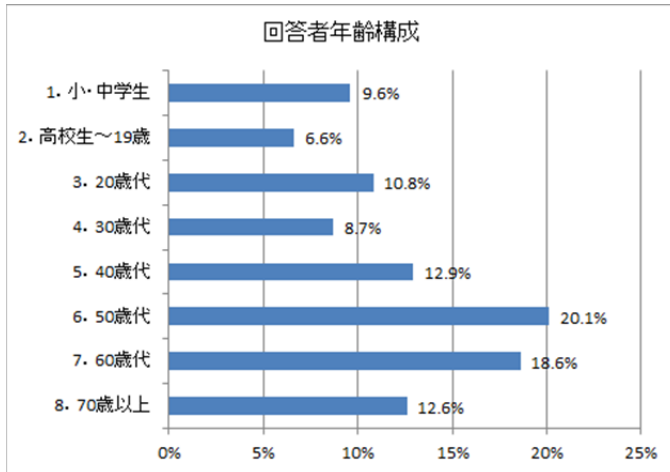
5-8. 札幌への来訪意向

札幌での PMF 演奏会への来訪意向を尋ねた。来訪意向「ある」は 32%、一方「ない」は 29%であった。39%ある「どちらとも言えない」層も含めて、何らかの働きかけや環境整備で、道外からの来訪者を増やす可能性があることを示唆すると読んでおきたい。



5-9. フェースシート



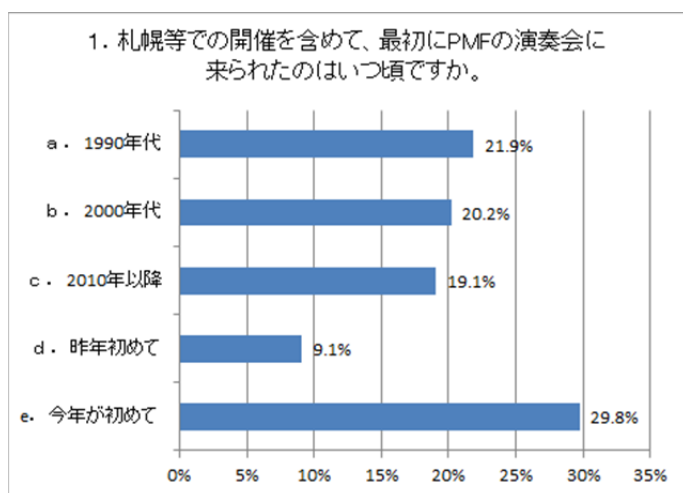


6. 道内演奏会での調査結果に関する分析

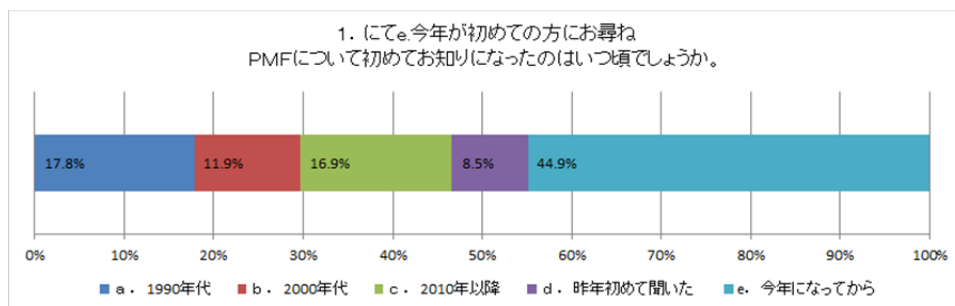
苫小牧と函館で開催された演奏会での調査結果である。函館会場での調査票の回収が 100 サンプルに満たないことから、個別集計ではなく苫小牧会場での調査結果とまとめて、共通する設問のみの集計である。

6-1. 初来場時期

「今年が初めて」と「昨年初めて」が 39%と、札幌演奏会の結果と比較すると近年に PMF と接触した人が多い。年 1 回ないしは数年に 1 回という開催頻度であるので、日程の都合で継続来場が難しいということがあると考えられる。そのために相対的に直近年の初来場の比率が高くなった。しかし、継続来場が 61%と、長期間 PMF を支持し続ける人たちも多いことに留意する必要がある。

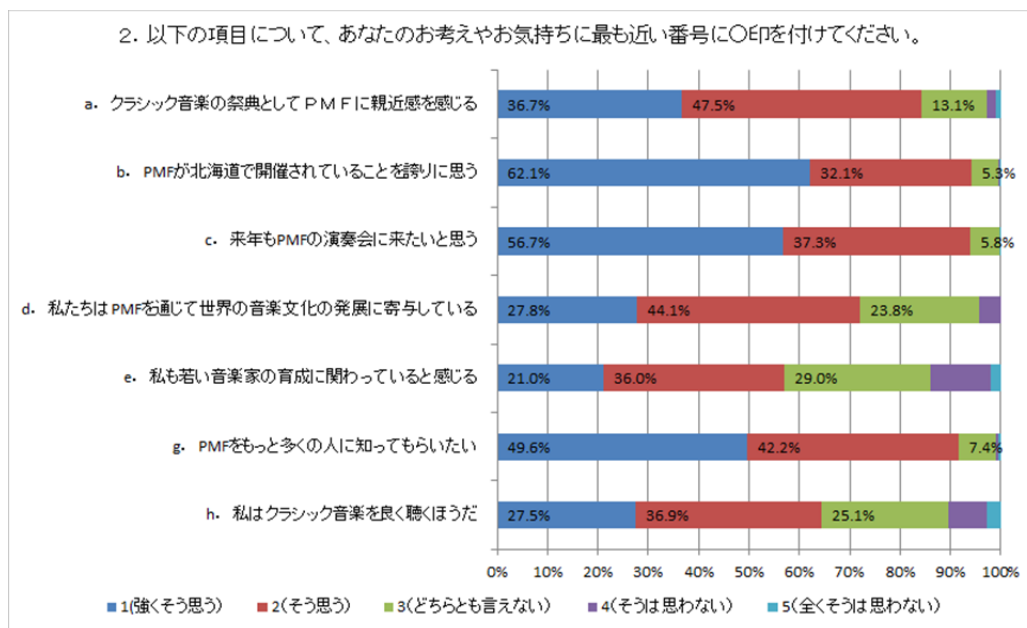


初来場者にいつから PMF をいつから知っているかを尋ねたところ、今年、昨年で 53%と、半数が直近年まで PMF を知らなかったという結果である。札幌演奏会での調査結果と比較して 16%ポイントほど高いことになる。毎年約 1 か月間、様々な演奏会やその他のプログラムが展開される札幌と、1 回の演奏会のための都市では認知度に差がつくことは致し方ない面もあるが、北海道での支持基盤の確立が全国的な認知度向上のベースになると考えると、継続的な方策を検討しても良いだろう。



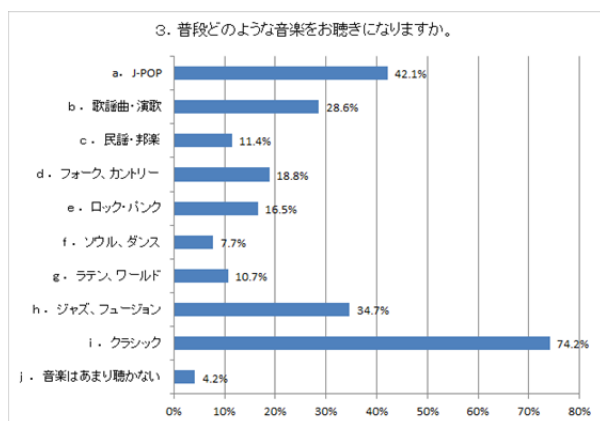
6-2. PMF に関する意識

札幌演奏会での調査の 11 項目から 7 項目を選んで設問とした。全体として札幌調査と同様の傾向であるが、項目 a と e ではやや大きな差が出ている。項目 a「親近感を感じる」では、肯定的意見が道内演奏会での調査では 7%ポイントほど低い結果となった。一方、項目 e「私も若い音楽家の育成に関わっている」では、道内演奏会の方が 15%ポイントほども高い結果である。



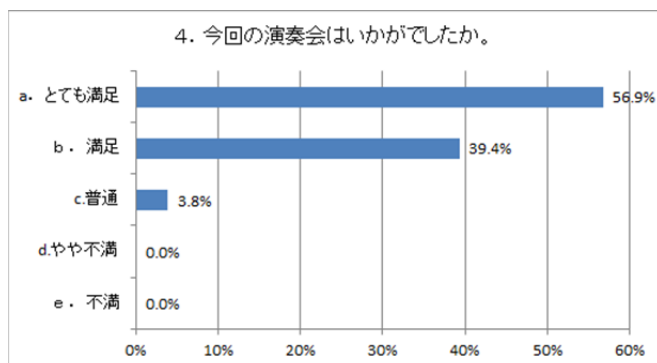
6-3. 音楽との関わり

PMF 演奏会への来場者を対象とした調査であるので、クラシックを選択した回答者が多いのは当然のことと考えられる。なお、札幌調査では設問の中で「どのような音楽をよくお聴きになりますか」と尋ねたが、道内演奏会での調査では「どのような音楽をお聴きになりますか」と尋ねた。“よく”という言葉の有無で、回答行動に多少の違いが長じたことは否定できないので、この点を明記しておく。

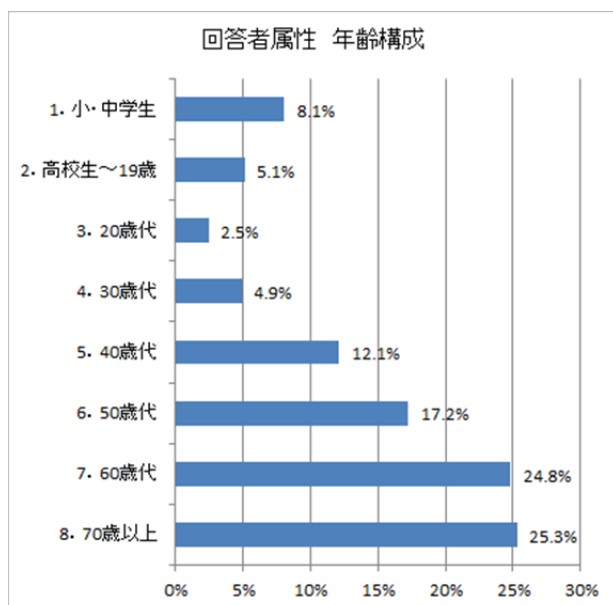
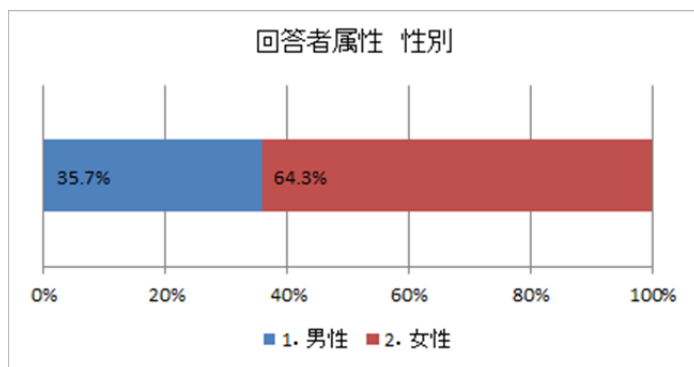


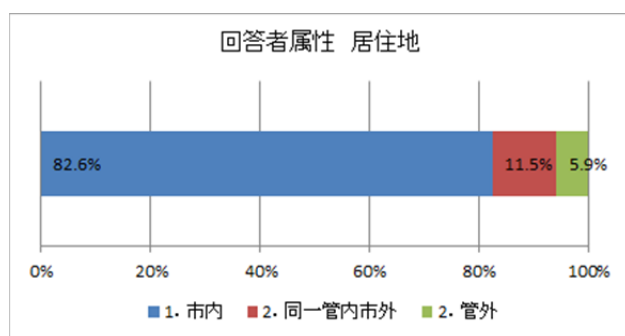
6-4. 演奏会への感想

満足とする回答が圧倒的で 96%に達する。不満足回答は全くなかった。



6-5. フェースシート





7. まとめ

2014 年より継続実施している来場者調査は 5 年目となった。これまで調査票への回答を熱心にご記入いただいた多くの方々のご協力の賜物である。心よりの感謝を申し上げる次第である。

以下、3 点を記してまとめとする。

①情報提供、広報活動の成果は出ている。

2018 年にはこれまで試みたことが無い広報活動が展開されたが、新しい試みを含めて、効果が出ていることが確認された。雪まつりへの参加は単発のイベントとあると思われるが、積極的な情報発信は継続してこそ意味がある。すべての関係者、来場者、市民に向けた、きめ細かく、誠実な情報提供を今後も続けることが、本年確認出来た効果を定着することにつながる。

②なお一層の支持基盤獲得の努力が必要である。

2014 年以來の来場者調査報告書のまとめとして、毎年、支持基盤の獲得に言及してきた。本年も改めて、この点に触れておきたい。札幌での PMF の認知度は比較的高いと推測されるが、なお一層の支持基盤獲得の努力が必要であろう。その際、実際に演奏会に足を運ぶ来場者、オープンリハーサルやその他の関連企画に参加される方への働きかけは当然であるが、幅広く札幌市民、北海道民に向けた働きかけを継続したい。また、中長期的な課題として、若年層への働きかけがある。10 年、20 年という時間を考えるとき、次世代の支持基盤の獲得は重要な課題である。この観点からリンクアップ・コンサートは大変重要な試みであるし、今回設定されたユース・ウイング席も若い人達を演奏会場に誘う方策の一つとして評価できる。1 年 2 年では目に見えるような効果は得られないかもしれないが、こういった試みは継続して実施することが重要であろう。

③北海道外での認知度の向上方策を検討するべきである。

2018 年は久方ぶりの広島公演であった。そのために広島演奏会でも調査実施の機会を得ることが出来た。集計結果は上述のとおりだが、認知度を見るとなお一層の検討が必要と思われる。PMF が今後長く実施されていくためには、札幌あるいは北海道の音楽イベントという位置づけではなく、全国的な支持のもとに実施されるグローバルな音楽祭という位置づけを確固たるものにすべきである。そのためには道外に向けた働きかけが必要である。札幌での演奏会への道外からの来場者を増やすことを短・中期的な目標とすることも方策の一つであろう。

< 付属資料 >

2018 年調査 調査票

2018年 PMF 演奏会に関する来場者アンケート

ご協力を
お願いします



PMFはこれまで多くの方々に支えられて歴史を積み重ねてきました。今後、さらにPMFを発展させていくために皆様の率直なご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。この調査は、公益財団法人PMF組織委員会が実施しています。

Q1 PMFの演奏会に最初においでになったのはいつごろですか。(該当する項目一つに✓印を付けてください)

- ☐^a 1990年代 ☐^b 2000年代 ☐^c 2010年以降 ☐^d 昨年初めて ☐^e 今年が初めて

SQ:「今年が初めて」とお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

- ☐^a 1990年代 ☐^b 2000年代 ☐^c 2010年以降 ☐^d 昨年初めて知った ☐^e 今年になってから

Q2 PMFに関する情報提供で今年お目に留まったもの／お聞きになったものはどれですか。(該当する項目すべてに✓印を付けてください)

- ☐^a テレビ番組 ☐^b テレビCM ☐^c ラジオ番組 ☐^d 新聞記事・広告 ☐^e 雑誌記事・広告
☐^f 掲示板・ポスター ☐^g 広報さっぽろ ☐^h インターネット記事、ホームページ ☐ⁱ パンフレットやチラシなどの印刷物 ☐^j 街頭広告・交通広告(地下鉄内など)
☐^k 雪まつり会場

SQ:この中で特に記憶に残ったものはありますか。項目とともに感想などをご記入ください

Q3 本日の演奏会にはどのようなきっかけでおいででしょうか。(最もあてはまる項目一つに✓印を付けてください)

- ☐^a PMFの演奏を聞きたいと思ったから ☐^b 出演者や曲目に
関心があったから ☐^c 毎年来ているから ☐^d 良い評判を聞いた
から ☐^e 友人・知人に
誘われたから ☐^f 家族に誘われた
から ☐^g 勤め先が応援して
いるから ☐^h 招待券をもらった
から ☐ⁱ 当日券があった
から ☐^j ユース・ウイング席が
設定されていたので
☐^k その他(具体的にお教えてください)

Q4 本日の演奏会にはどういった方とおいででしょうか。(該当する項目一つに✓印を付けてください)

- ☐^a 一人で来た ☐^b 友人・知人と来た ☐^c 家族と来た ☐^d 職場の同僚と来た

Q5 普段どのような音楽をよくお聴きになりますか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ☐^a J-POP ☐^b 歌謡曲・演歌 ☐^c 民謡・邦楽 ☐^d フォーク・カントリー ☐^e ロック・パンク
☐^f ソウル・ダンス ☐^g ラテン・ワールド ☐^h ジャズ・フュージョン ☐ⁱ クラシック ☐^j 音楽はあまり
聴かない

Q6 音楽との関わり方はどのようなものでしょうか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ☐^a 聴く ☐^b カラオケなどで歌う ☐^c 楽器を演奏する ☐^d コンサートなどに行く ☐^e 音楽にはあまり
縁が無い

Q7 クラシック音楽をお聴きになるようになったのはいつ頃ですか。(該当する項目一つに✓印を付けてください)

- ☐^a 小学校前 ☐^b 小・中学校の頃 ☐^c 高校・大学の頃 ☐^d 社会人になってから ☐^e 今もそれほど
聴かない

Q8 クラシック音楽をお聴きになるようになったきっかけはどのようなことでしょうか。(該当する項目いくつでも✓印を付けてください)

- ☐^a 楽器を習い始めて ☐^b 音楽の授業で
聴いて ☐^c 吹奏楽・オーケストラ
のメンバーになって ☐^d 子供が楽器を習い
始めて ☐^e 友人の影響で
☐^f 親・兄弟・親戚の
影響で ☐^g テレビドラマや映画
で触れて ☐^h 行きつけの店が
いつも流していて ☐ⁱ あるアーティストの
ファンになって
☐^j その他(具体的にお教えてください)

うら面の設問にも
お答えください。

Q9 札幌ではクラシック音楽に加えて様々なジャンルの音楽や演劇など多様な舞台芸術が公演されています。PMFの演奏会以外に年間何回くらいこのような公演を鑑賞されていますか。おおよその回数をご記入ください。

a クラシック音楽の演奏会（PMFを除く）	1年間に（ ）回くらい
b クラシック以外の音楽ジャンルの演奏会・コンサート・ライブ	1年間に（ ）回くらい
c オペラ・バレエなど	1年間に（ ）回くらい
d 演劇・ミュージカル	1年間に（ ）回くらい
e その他（ ）	1年間に（ ）回くらい

Q10 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに近い番号に○印を付けてください。

	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そうは 思わない	全くそうは 思わない
a クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5
b PMFが札幌で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5
c PMFは敷居が高く身近には感じない	1	2	3	4	5
d 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5
e PMFの演奏会以外の教育・普及活動の内容は良く分からない	1	2	3	4	5
f 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5
g 来年もPMFの演奏会に来たい	1	2	3	4	5
h 演奏会鑑賞に加えて、PMFに何らかの形でもっと関わってみたい	1	2	3	4	5
i 札幌市内にいても開催の状況が伝わってこない	1	2	3	4	5
j これからも長く続いてほしい	1	2	3	4	5
k 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	1	2	3	4	5

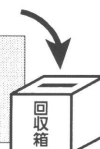
Q11 PMFに関してご意見等がありましたら、ご記入をお願いします。

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。（該当する項目一つに✓印を付けてください）

- F1 あなたは ☐¹ 男性 ☐² 女性
- F2 あなたの年齢は ☐¹ 小・中学生 ☐² 高校生～19歳 ☐³ 20歳代 ☐⁴ 30歳代
☐⁵ 40歳代 ☐⁶ 50歳代 ☐⁷ 60歳代 ☐⁸ 70歳以上
- F3 あなたのお住まいは..... ☐¹ 札幌市内 ☐² 札幌市近接市町 ☐³ 北海道内 → ☐道南 ☐道北 ☐道東
☐⁴ 北海道外 →（都道府県名：_____）
☐⁵ 国外 →（国名：_____）
- （Kitara大ホールにご来場の方のみ）
F4 本日はユース・ウイング席を…… ☐¹ 利用している ☐² 利用していない
ご利用ですか



ご協力、誠にありがとうございました。
回収箱にご投函ください。



2018年 PMFリンクアップ・コンサートに関する来場者調査

本日はリンクアップ・コンサートにご来場ありがとうございます。さらにPMFを発展させていくために皆様の率直なご意見をお聞きたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。この調査は、公益財団法人PMF組織委員会が実施しています。

Q1. 本日のコンサートにご来場の理由で最も当てはまるものは何ですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 子供が参加しているから b. 孫が参加しているから c. 兄弟／親戚が参加しているから
d. 子供／孫の通う学校が参加しているから e. 小学生の音楽教育に関心があったから
f. PMFのコンサートだから g. PMFのパンプ／広告を見て興味を持ったから
h. 招待されたので i. 勤務先（学校・教育委員会等）の関係で j. その他

Q2. 本日のコンサートには a. 一人で来た b. 友人・知人と c. 家族と d. 職場の同僚と

Q3. 本日のリンクアップ・コンサートは如何でしたでしょうか。ご感想をご記入ください。

Q4. これまでPMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）の演奏会においてになったことはありますか。

- a. ある b. ない

Q4-SQ. 「ない」とお答えの方にうかがいます。PMFについて、あなたに当てはまる項目を一つお選びください。

- a. これまで知らなかった・今回初めて知った b. PMFという名称だけは聞いたことがある
c. 演奏会に行ったことはないが、どのようなものか知っていた

Q5. 今年のPMFに関する情報でお目に留まった／お聞きになったことがあるものを、すべて○印でお選びください。

- a. テレビ番組 b. テレビCM c. ラジオ番組 d. 新聞記事・広告 e. 雑誌記事・広告
f. 掲示板・ポスター g. 広報さっぽろ h. インターネット記事、ホームページ
j. パンフレットやチラシなどの印刷物 k. 街頭広告・交通広告（地下鉄内など） l. 雪まつり会場

Q6. 普段どのような音楽をお聴きになりますか。該当する項目にいくつでも○印をつけてお答えください。

- a. J-POP b. 歌謡曲・演歌 c. 民謡・邦楽 d. フォーク、カントリー e. ロック・パンク f. ソウル、ダンス
g. ラテン、ワールド h. ジャズ、フュージョン i. クラシック j. 音楽はあまり聴かない

Q6-SQ. 「i」を選択された方にうかがいます。クラシック音楽をお聴きになるようになったきっかけはどのようなことでしょうか。該当する項目すべて○印でお答えください。

- a. 楽器を習い始めて b. 音楽の授業で聴いて c. 吹奏楽・オーケストラのメンバーになって
d. 子供が楽器を習い始めて e. 親しい友人に勧められて f. 親・兄弟が良く聴いていたから g. テレビドラマ
や映画で触れてから h. 行きつけの店がいつも流していて i. あるアーティストのファンになって j. その他

Q7. クラシック音楽についてどのようなお考え、印象をお持ちでしょうか。お考えをご記入ください。

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。該当する番号に○印でお答えください。

F1. あなたは 1. 男性 2. 女性

F2. あなたの年齢は 1. ～19歳 2. 20～30歳代 3. 40～50歳代 4. 60歳以上

F3. あなたのお住まいは 1. 札幌市内 2. 札幌市近接市町 3. その他北海道内 4. 北海道外

《ご協力を誠にありがとうございました。回収箱にご投函ください。》

2018年度 PMF演奏会に関する来場者調査

本日は、パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。
今後さらにPMFを発展させていくために皆様のご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願い
します。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。

1. 札幌等での開催を含めて、最初にPMFの演奏会に来られたのはいつ頃ですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 1990年代 b. 2000年代 c. 2010年以降 d. 去年が初めて e. 今年が初めて

↓
S Q eとお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

- a. 1990年代 b. 2000年代 c. 2010年以降 d. 昨年初めて聞いた e. 今年になってから

2. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強くそう 思う	そう思う	どちらと も言えな い	そうは思 わない	全くそう は思わ ない
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5
b. PMFが北海道で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5
c. 来年もPMFの演奏会に来たいと思う	1	2	3	4	5
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5
e. 私もし若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5
f. これからも長く続いてほしい	1	2	3	4	5
g. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	1	2	3	4	5
h. 私はクラシック音楽を良く聴くほうだ	1	2	3	4	5

3. 普段どのような音楽をお聴きになりますか。該当する番号にいくつでも○印をつけてお答えください。

- a. J-POP b. 歌謡曲・演歌 c. 民謡・邦楽 d. フォーク、カントリー e. ロック・パンク f. ソウル、ダンス
g. ラテン、ワールド h. ジャズ、フュージョン i. クラシック j. 音楽はあまり聴かない

4. 今回の演奏会はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

- a. とても満足 b. 満足 c. 普通 d. やや不満 e. 不満

5. 今回の演奏会の感想をお聞かせください。

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。

- あなたは 1. 男性 2. 女性
あなたは函館音楽鑑賞協会の会員ですか 1. 会員 2. 会員ではない
あなたの年齢は 1. 小・中学生 2. 高校生～19歳 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代
 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳以上
あなたのお住まいは 1. 函館市内 2. 函館市外(渡島管内) 3. 函館市外(渡島管外)

ご協力をありがとうございました。この用紙は「アンケート回収箱」にお入れください。

2018年度 PMF演奏会に関する来場者調査

本日は、パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。
今後さらにPMFを発展させていくために皆様のご意見をお聞きしたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。

1. 札幌等での開催を含めて、最初にPMFの演奏会に来られたのはいつ頃ですか。該当する項目を一つお選びください。

- a. 1990年代 b. 2000年代 c. 2010年以降 d. 昨年が初めて e. 今年が初めて

↓
SQ eとお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

- a. 1990年代 b. 2000年代 c. 2010年以降 d. 昨年初めて聞いた e. 今年になってから

2. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	強くそう 思う	そう思う	どちらと も言えな い	そうは思 わない	全くそう は思わ ない
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	1	2	3	4	5
b. PMFが北海道で開催されていることを誇りに思う	1	2	3	4	5
c. 来年もPMFの演奏会に来たいと思う	1	2	3	4	5
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	1	2	3	4	5
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	1	2	3	4	5
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	1	2	3	4	5
g. 私はクラシック音楽を良く聴くほうだ	1	2	3	4	5

3. 普段どのような音楽をお聴きになりますか。該当する番号にいくつでも○印をつけてお答えください。

- a. J-POP b. 歌謡曲・演歌 c. 民謡・邦楽 d. フォーク、カントリー e. ロック・パンク f. ソウル、ダンス
g. ラテン、ワールド h. ジャズ、フュージョン i. クラシック j. 音楽はあまり聴かない

4. 今回の演奏会はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

- a. とても満足 b. 満足 c. 普通 d. やや不満 e. 不満

5. 今回の演奏会の入場料はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

- a. とても高い b. 高い c. ちょうど良い d. 安い e. とても安い

6. 今回の演奏会の感想をお聞かせください。

[]

7. 今後、どのような演奏を聴いてみたいですか。

[]

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。

- あなたは 1. 男性 2. 女性
あなたの年齢は 1. 小・中学生 2. 高校生～19歳 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代
6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳以上
あなたのお住まいは 1. 苫小牧市内 2. 苫小牧市外(胆振管内) 3. 苫小牧市外(胆振管外)

ご協力をありがとうございました。この用紙は「アンケート回収箱」にお入れください。

2018 年 PMF演奏会に関する来場者調査

PMFはこれまで多くの方々に支えられて歴史を積み重ねてきました。今後、さらにPMFを発展させていくために皆様の率直なご意見をお聞きたく、この調査を実施しています。どうかご協力をお願いします。なお、ご回答内容は統計的に処理し、個別の回答を開示することは一切ございません。この調査は、公益財団法人PMF組織委員会が実施しています。

Q1. PMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)について、あなたに当てはまる項目を一つお選びください。

- a. これまで知らなかった b. PMF という名称を聞いたことはある
c. 演奏会に行ったことはないが、どのようなものか知っている d. 演奏会に行ったことがある

Q2. PMF に関する情報でお目に留まった／お聞きになったことがあるものを、いくつでも○印をつけてお選びください。

- a. ポスター b. 街頭広告 c. パンフ類 d. 新聞記事 e. テレビ f. ラジオ g. その他

Q3. あなたの音楽とのかかわりについてお尋ねします。

Q3-1. 普段どのような音楽をお聞きになりますか。該当する項目にいくつでも○印をつけてお答えください。

- a. J-POP b. 歌謡曲・演歌 c. 民謡・邦楽 d. フォーク, カントリー e. ロック・パンク f. ソウル, ダンス
g. ラテン, ワールド h. ジャズ, フュージョン i. クラシック j. 音楽はあまり聴かない

Q3-3. クラシック音楽をお聴きになるようになったきっかけはどのようなことでしょうか。

- a. 楽器を習い始めて b. 音楽の授業で聴いて c. 吹奏楽・オーケストラのメンバーになって
d. 親しい友人に勧められて e. 親・兄弟が良く聴いていたから f. テレビドラマや映画で触れてから
g. 行きつけの店がいつも流していて h. あるアーティストのファンになって i. その他

Q4. 本日の演奏会にはどのようなきっかけでおいででしょうか。最も該当する項目を一つお選びください。

- a. PMF の演奏を聞きたいと思ったから b. 出演者や曲目に関心があったから c. 良い評判を聞いたから
d. 友人・知人に誘われたから e. 家族に誘われたから f. 勤め先が応援しているから
g. 招待券を貰ったから h. 当日券があったから i. その他

Q6. 本日の演奏会には a. 一人で来た b. 友人・知人と c. 家族と d. 職場の同僚と

Q7. クラシック音楽の演奏会には年間何回くらいおいででしょうか。 回くらい

Q8. 国内で開催されている音楽祭を列挙しています。ご存知のもの／行かれたことがあるものを✓印でお示ください。

	<u>知っている</u>	<u>行ったことがある</u>
ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン『熱狂の日』音楽祭	☐	☐
セイジ・オザワ 松本フェスティバル	☐	☐
武生国際音楽祭	☐	☐
フェット・ド・ラ・ミュージック（音楽の祭日）	☐	☐
HIROSHIMA MUSIC FESTIVAL	☐	☐
草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル	☐	☐
別府アルゲリッチ音楽祭	☐	☐

Q9. 札幌での PMF への来訪にご関心はありますか。 a. ある b. どちらとも言えない c. ない

質問は以上です。統計的分析のためにご自身についてお尋ねします。該当する番号に○印でお答えください。

F1. あなたは 1. 男性 2. 女性

F2. あなたの年齢は

1. 小・中学生	2. 高校生～19 歳	3. 20 歳代	4. 30 歳代
5. 40 歳代	6. 50 歳代	7. 60 歳代	8. 70 歳以上

F3. あなたのお住まいは ☐ 広島市内 ☐ 広島市近接市町
☐ 広島県内 ☐ 広島県外 → 都道府県名 ()
☐ 国外 (国名:)

《ご協力を誠にありがとうございました。回収箱にご投函ください》

